



千葉大学医学部同窓会報 第177号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みの は な 同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みの は な 同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みの は な 同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/

年頭の挨拶

みの は な 同窓会長 済陽高穂 (昭45)



明けましておめでとうございます。どなたさまも新たな気持ちで新年を迎えられたことと思います。平素のみな同窓会へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。 皆さまの総意により3年前に完成した新同窓会館は、同窓生のクラス会や、同窓生と学生との懇親を目的に、みの は な 祭と同時開催されたホームカミングパーティなどに活用されております。 みの は な 同窓会の事業としては、懸案の同窓会館関連施設・メモリアルウォークの設置、同窓会誌記念誌編集などを検討中です。 1. 開学以来の医学部の歴史や特筆される功績などを一堂に展示・解説するコーナーを設置することを計画中で、その規模、予算、設

置場所を年来検討しております。また、平成33年には現医学部附属病院の西側に近接して新医学部棟が竣工するに伴い、現医学部本館(旧病院)は閉鎖される予定です。そこで、この記念建造物の部分的保存などで「千葉医学」の表象に資することはできないものかと思案中です。文部科学省の建築計画がほぼ決定をみる中、みの は な 同窓会の希望がどこまで反映されるか未知数ですが、他大学医学部の記念施設も参考にしながら、是非ともみの は な 会員に懐旧の念を思い起こさせ、また、千葉大学医学部関連の人々を鼓舞するものが実現できればと考えています。 2. 千葉大学医学部135周年記念誌が立派に刊行されておりますが、今回あらためて、歴史的記述や明治・大正・昭和期の医学部のあゆみを良く現した写真、あるいは現在の各支部活動の状況などを中心に、新たな記念誌を編集できればと思

3. 卒業50年のクラス会では「母校への感謝」として、みの は な 同窓会活動の基盤となる基金作りを少しずつ始めたかどうか、とのご提案をいただき、前向きに検討中です。 かつて第二次世界大戦終結後しばらくして、米国とソビエト連邦の二大国の対峙が続く「冷戦時代」を迎えました。その中で1957年10月ソ連がいち早く世界初の人工衛星「スプートニク1号」を打ち上げ、次いで1961年4月、ガガーリン大佐による世界初の有人宇宙飛行の成功により、ソ連が宇宙開発競争で優位に立ちました。ソ連のスパイトニクの成功に3か月遅れてアイゼンハワー大統領は、旧ドイツでV2ロケットを開発した陸軍のフォン・ブ라운に至し命令を下し、エクスポローラー1号の打ち上げに成功して、米ソ宇宙競争が開始されたのです。一方、米国が世界のリーダーであると自負し、ロケット核弾頭による米国本土への攻撃を可能にした宇宙軍事開発を抑制する使命を痛感したのが、次の第35代ケネディ大統領だったのです。第一次世界大戦により壊滅した旧ドイツの復興に向けたヒトラーの欺瞞

に対し、1938年のミュンヘン会談で、連合国主として英国チャーレン首相側が戦乱回避のためにとった優柔不断な宥和政策を足掛かりに、ナチスとヒトラーが台頭したことが第二次世界大戦の発端となりました。そして、ヒトラーはチエコのみならず、ポーランド、ハンガリーまで侵攻し、またナチ党の莫大な戦費国債償還のため、ユダヤ人財宝の強奪をも正当化させるホロコーストを行ったのです。このホロコーストを絶対許さなかったのが連合国側の米国ルーズベルト大統領と英国チャーチル首相で、的確な情勢分析と強い信念により、1944年6月にノルマンディー上陸作戦を成功させ、ナチスを壊滅させたのです。大戦後の冷戦期、軍備競争に代わり、宇宙競争とが激減が大命題として認識され、ケネディは米国の威信にかけて、莫大な資金と人材を投入、前者ではヒューストンのNASAを司令部として8年間現在の貨幣価値で160

最終講義

のご案内

診断病理学 中谷 行雄 教授 日時 平成30年2月28日(水) 午後4時 場所 医学部附属病院 ガーネットホール(大講堂) 演題 診断病理学

病院ではたらく病理学の道に歩んで 死亡を年間1%すなわち25年間に25%減少させています。医療として真に有効な方法を見いだし、国民に幸福をもたらした成果であると言えるのです。千葉大学医学部が、患者さんの期待に応える成果を示し、国民の認める医学・医療のリーダーとして活躍できるよう念じています。本年が皆さんにとり更なる進歩の年となり、ご多幸に恵まれることを願ってやみません。本年もよろしくお願ひします

紙面紹介

年頭の挨拶	1	学内情報	15
就任挨拶	2	会員から	18
人事異動	3	課外活動団体だより	20
新年の挨拶	4	著書紹介	21
各地のみの は な 会	7	雑文雑談	22
クラス会	8	地区のみの は な 会報	23
研修プログラム	9	オンライン会報	24
研修医だより	13	編集後記	27
	14		28

祝叙勲

平成29年 秋の叙勲 瑞宝双光章 中村 精男(専24)

就任挨拶

群馬大学大学院医学系研究科

医療の質・安全学 教授

小松 康 宏 (昭59)



平成29年11月1日付で群馬大学大学院医学系研究科に新設された「医療の質・安全学」教授を拝命いたしました。

私は昭和59年に千葉大学医学部を卒業し、聖路加国際病院での初期研修後、東京女子医科大学腎臓小児科に入局し、腎臓病学の診療、研究に従事しました。この間、フロリダ大学医学部薬理学教室に留学し、尿管単離法を用いた集合尿管カリウム輸送の研究を行いました。その後、1995年に千葉県こども病院腎臓科に赴任しましたが、多くの同窓の先生方に囲まれて仕事をすすめることができた2年間は今でも楽しい思い出です。
1997年に聖路加国際病院名誉院長の日野原重明

先生からお声をかけていただき聖路加国際病院に戻り、腎臓内科医としての新たな道を歩み始めました。腎臓・透析分野では指導医でしたが、内科医としては一からの出発で、苦勞もありましたが学ぶことも多い日々でした。腎臓病・透析医療は医師だけではすすめることができません。看護師、栄養士、薬剤師、臨床工学技士など多職種連携が必要です。診断と処方だけでなく、患者教育も重要で、治療法選択にあたっては倫理的な考え方も求められます。そこで、チーム医療や医療の質改善に関する知識・技術を深めるためにノースカロライナ大学チャペルヒル校、公衆衛生大学院に進み、2010年には公衆衛生学修士(MPH)を取得することができました。

2010年、聖路加国際病院は国際的病院評価機構であるJCI (Joint Commission International) 認証をうけることとなりました。認証準備にあたって、病院全体の医療の質・安全を統括する部門として、QI (Quality Improvement) センターが設立され、私が責任者となりました。JCI 認証は、病院の医療の質・安全が国際標準に達していることを示すものですが、審査項目は約1200にのぼり、サーベイヤが現場に足を運び、実際の診療プロセスをも厳しく評価します。これまで2回の本審査、2回の模擬審査をうけるなかで、医療の質・安全の国際標準とは何かを理解するとともに、それを維持・発展させるためには病院全体意識改革、安全文化を築くことが不可欠であることを痛切に感じました。

「医療の質」とは、医療制度の枠組みのなかで、現在の医療水準からすれば提供できるはずの医療に、現実提供されていない医療がどれほど近いかを意味しています。禁煙教育、ガイドライン遵守、手指衛生など当然すべきことが行われていないのが現実です。体系的、科学的な方法を用い、医療者ならびに患者の行動を変え、業務プロセスを改善し、医療者にとっても患者にとっても価値ある変化につなげていくのがQuality Improvementという領域です。医療の質と患者安全は表裏一体で、海外ではQuality and Patient Safetyに関する多くの実践、研究が進んでいます。これからは病院の医療安全体制を強化するとともに、本邦における「医療の質・安全学」の発展に貢献できるように精進するつもりです。同窓会の先生方におかれましては、ひきつづきご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

人事異動

- 准教授 アレルギー・臨床免疫学 鈴木浩太郎(平6)
- (アレルギー・膠原病内科講師より) グローバルプロミネント 研究基幹 須藤明(平7)
- (GP特任准教授より) 講師 精神医学 石川雅智(平12)
- (同助教より) 新津富央(平15)
- (同助教より) 眼科学 北橋正康(琉球大・平15)
- (同助教より)

なのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

- 第二三回(二〇一八年度)なのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。
- 一、受賞対象者
 - ① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。
 - ② 功労賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学なのはな同窓会に多大の貢献をした者。
- 二、表彰
 - ① 社会貢献賞(三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。
 - ② 功労賞 (一件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。
- 三、応募方法 所定の申請用紙により、二〇一七年十二月一日から二〇一八年一月三十一日まで申請して下さい。
- 四、受賞者の決定 選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇一八年五月頃までに各申請者に通知すると共に、なのはな同窓会報に掲載します。
- 五、問い合わせおよび申請用紙請求先 千葉大学医学部内、なのはな同窓会事務局 申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

- | | | |
|--|--|--|
| 薬理学
降幡知己
(千葉大薬・平13)
(同助教より) | 脳神経外科
松谷智郎(平11)
(脳神経外科助教より)
アレルギー・膠原病内科
池田啓(平9)
(同助教より) | 国際医療福祉大学
精神科
中里道子(平2)
糖尿・代謝・内分泌内科
竹本稔
(富山医薬大医・平5) |
| 腫瘍病理学
山口高志
(徳島大工・平13)
(同助教より) | 細胞治療内科学
清水孝彦
(広島大生物生産・平2)
(先進加齢医学寄附講座
特任准教授より) | 他大学教授
群馬大学
医療の質・安全学講座
小松康宏(昭59) |
| このまのこころ診療部
佐々木剛(秋田大・平14)
(同助教より) | | |



国際医療福祉大学医学部

糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授

竹本 稔 (富山医薬大医・平5)



この度、平成29年4月1日付けで国際医療福祉大学医学部糖尿病・代謝・内分泌内科の主任教授を拝命いたしました。

私は富山医科薬科大学医学部(現富山大学)を卒業後、新潟大学医学部附属病院ならびに関連病院にて主に循環器内科の臨床研修を行いました。この臨床研修を通じて糖尿病合併症の治療や研究に強い興味をいだき、平成9年より千葉大学医学部第二内科に大学院生として国内留学し、齋藤康先生(千葉大学前学長)、森聖二郎先生(現東京都健康長寿医療センター臨床研究推進センター部長)のご指導のもとで糖尿病大血管障害に関する基礎研究を行い、学位をいただきました。

for Bethesda教授のもとで、腎糸球体発現遺伝子の同定とその機能解析を6年間行いました。現在も留学期間中に同定した新規遺伝子 Senaphorin3G、R3h domain containing like (R3hdml) の機能解析を腎糸球体、骨格筋そして脂肪細胞に着眼し継続しています。

平成18年に帰国後は細胞治療学講座(現細胞治療内科学)において齋藤康先生、横手幸太郎先生(現細胞治療内科学教授)のご指導のもと糖尿病、脂質代謝、肥満症さらに遺伝性早老症の臨床と研究に携わってまいりました。特に横手教授には公私ともに大変にお世話になり、臨床、研究はもとより後進の指導方法に至るまでご指導いただき、帰国後も自由に研究を継続させていたいただいたことに改めてお礼を申し上げます。さらに、現在の私があるのは、齋藤康先生、森聖二郎先生をはじめとした伝統ある千葉大学の多くの先生方のご指導と代謝・老年病研究室(旧分子老化研究室)で一緒に苦勞してきた仲間のお陰です。深く感謝申し上げます。

さて、現在私は前千葉大学大学院医学研究院脳神経外科学教授佐伯直勝先生が病院長をお務めである国際医療福祉大学市川病院に勤務をしています。一臨床医として勤務をしながら、医学部生への英語による授業の用意、さらには2020年の国際医療福祉大学医学部成田病院の開院にむけた準備を行っています。ここ市川病院には7名の主任教授があり、毎月情報交換会を開いていますが、今後も密な連携をとりながら新しい医学部をつくってゆきたいと思えます。

もとより浅学非才ではありますが、糖尿病・代謝・内分泌内科学に関する診療、研究に誠心誠意努力し、さらに最大のミッションである「世界で活躍できる人材の育成」に全力を尽くしてまいれる所存です。千葉大学のものはな同窓会の先生方に於かれましては、今後とも尚一層のご指導、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



寺澤捷年先生(昭45) 日本医師会最高優功賞受賞

寺澤捷年先生が、日本医師会最高優功賞のうち、都道府県医師会長推薦による「医学、医学の研究または地域における医療活動により、医学、医療の発展または社会福祉の向上に貢献し、特に功績顕著なる功労者」漢方医学の発展に著しく貢献した功労者として受章されました。

主なる功績内容

1. 漢方医学の継承と発展
日本の伝統医学の正当な継承者であり、これと共に、神経内科専門医として、日本神経学会専門医番号第3号を持つ優秀な人材である。「千葉大学東洋医学研究会」において漢方医学を継承することに成功しており、その成果は「吉益東洞の研究」(岩波書店)で公表されている。(※るのとはな同窓会報162号に紹介文を掲載)
2. 和漢診療学の創生
伝統を継承するのみではなく、反対学である中枢神経解剖学を大学院で専攻し、その後、神経内科の専門医として臨床に携わり、その知のありさまを漢方の世界に採り入れ、新たな知の創生に果敢に挑戦した。この研究によって経験知の世界に科学の光が当たる土台が形成され、この成果が25年後の文部科学省の21世紀COEプログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」採択への土台となっている。新たに創生した「和漢診療学」の概念は、漢方医学に主軸を置きながら西洋の知を活用するという正に漢方の歴史上、そして日本の医学の歴史において初めての画期的な業績である。
3. 認知症およびインフルエンザ治療薬の研究
これまで経験的に頭痛治療薬として用いられていた釣藤散に認知症の改善効果があることを見出し、その薬効効果をプラセボを対照薬とした二重盲検臨床比較試験によって明らかにした。これは、世界で初の漢方薬の客観的薬効評価の英文論文として、また、認知症治療薬のエビデンスとして高く評価されている。この科学的エビデンスによって、釣藤散は現在では認知症治療薬の一つとしてその地位を確立している。さらに、インフルエンザ感染症に古来用いられてきた麻黄湯の作用発現機序を解明し、その抗ウイルス増殖作用が麻黄の塩酸アマンタジンに類似の液胞の脱殻阻止であること、ならびに桂皮の成分がウイルスの増殖に必要なタンパク合成を阻止する作用によるものであることを明らかにした。インフルエンザの治療には、オセルタミビルなどの抗ウイルス剤が用いられるが、その副作用と考えられる事故例が多発したことから、現在では思春期の患者ではこの麻黄湯が第一選択薬として多く用いられている。これは寺澤氏が明らかにした科学的研究成果によるものであり、その功績は極めて大きい。

(日本医師会より提供)

新年の挨拶

九州のものはな会

会長 谷川久一 (昭32)



九州地区のものはな会の現状をお知らせします。

九州のものはな会は昭和55年に第1回を出席者21名でスタートし、年1回九州各地で開催してきましたが、平成12年の第17回を最後に開催されておらず、現在九州のものはな会は活動して

中京のものはな会

会長 松井宣夫 (昭38)



同窓会の皆様、新年あけましておめでとございます

1 ションセンター長就任、平成23年10月名譽センター長、同年10月10日から、社団法人名古屋総合リハビリテーション事業団理事長、現在に至ります。昭和60年に赴任当時は33年先輩の昭和5年卒、耳鼻科を開業の伊藤源一先生が同窓会長をされておりました。名古屋に来て、あつという間に、32年を過ぎましたが、中京のものはな会の諸先輩方には、赴任当時から、名古屋のことは全く不案内の私に、いろいろ面倒を見て頂き誠にありがとうございました。先輩、後輩を問わず、同窓生のありがたさをひしひしと感じております。

中京のものはな同窓会は、毎年7月、8月の水曜日の夜に開催しております。通常は名古屋市内のホテルや料理屋、昨年はドイツ風の雰囲気溢れるビヤホール(ビルゼン)で開催いたしました。中京のものはな同窓会員は現在、愛知県・29名、岐阜県・3名、三重県・1名、総数35名です。通常、出席者は10人前後で、近況報告と千葉大医学部時代の思い出話で盛り上がり、旧交を温められるのが何よりの楽しみです。

が藤田保健衛生大学医学部臓器移植科の教授として赴任されました。千葉大先端応用外科、国立佐倉病院を経て、500例以上の腎移植手術を手掛けられ、2004年1月には国内初の生体臓器移植の実施、50例以上の脳死、生体臓器移植の執刀を手掛けられており、今後の益々の活躍が期待されております。

私事ですが、私は昭和38年に母校を卒業し、東京通信病院でインターン、翌年鈴木次郎教授率いる整形外科教室に入局しました。東京オリピックの年です。昭和39年10月1日に国内初めての新幹線、東京ー新大阪間が開通致しました。同年11月29日に、整形外科主任教授の鈴木次郎先生に仲人をお願いし、国際文化センターで披露宴を行い、新婚旅行は当時ブームの京都、南紀、伊勢志摩の旅行でした。帰りは2階建ての近鉄特急電車で名古屋に到着し、名古屋から東京へは新幹線で戻りました。当時、名古屋駅周辺には高層ビルは数少なく、新幹線から眺めた名古屋駅前の大名古屋ビルディングが唯一の高層ビルでした。昭和60年9月1日に名古屋市立大学に赴任した当時も、新幹線名古屋駅周辺には高層ビルは殆どありませんでした。名古屋で「自然の叡智」をテーマとし、2005年3月25日(9月25日の185日間)に121カ国、4国際機関が参加した「愛・地球博」(2005年日本国際博覧会)が開催され、会期中に2200万人が来場しました。以降、名古屋駅周辺は続々と高層ビルが林立してまいりました。平成39年(2027年)のリニア中央新幹線ターミナル駅開業に向けて、名古屋駅周辺は刻々と様変わりしております。ミッドランドスクエアを始め、高層ビルが林立し、ショッピング街、B級グルメで有名な店が多数入居しております。名古屋を起点に、中部山岳地帯、飛騨、高山、下呂温泉、世界遺産白川郷、伊勢志摩、伊勢神宮、など訪問先が数多くあります。高速道も完備し、名古屋方面はトヨタ自動車の影響で道路も広く、交通渋滞は稀です。ものはな同窓の皆様、是非とも名古屋にお立ち寄りください。

最後に、ものはな同窓会の皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りし、新年のご挨拶いたします。

群馬のものはな会

会長 鈴木 守 (昭39)



ものはな同窓会会員の皆様、明けましておめでとございます。母校が一層の発展を成し遂げて成果を上げ新しい医学・医療を切り開き前進する年でありますように、また、ものはな同窓会会員諸兄弟がそれぞれの場に於いて、お力を存分に発揮され希望と力に満ちた日々を過ごされるようお祈りいたします。

周知のように今、日本はかつて見たことのない高齢化社会を迎え、医療・医学のあり方もそれなりの変容を迫られています。近代医学は「医学の進歩はあまたの死骸を乗り越えた先にある」(20世紀初頭のウエルサーエフのことば)との信念に基づき、進め進めのかげ声のもとに、今まで確かに大きな進歩発展を成し遂げてきました。しかし、その姿勢だけでは医学は行き詰ま

りを余儀なくされる時代を迎えました。医療においてQuality of lifeが論議される時代を迎えてまだ日が浅いうちに、今度はQuality of lifeの問題とも直面しなければならぬ局面にわれわれは立たされています。このような、いわば医学・医療のソフト面と捉えられる問題は昔から意識の中にあつたことは間違いありません。しかし「医は仁術」という言葉に象徴される日本の文化と風土の中で、問題はいわば医師個人のもつ医学・医療観の中に埋没し社会全体で取り組む姿勢が不十分であった事は否めません。

今、医療費は年間40兆円を超える時代となり、医療はすでに医師・患者だけではなく社会全体が真剣に取り組まなければならない課題として、強く意識されるようになりました。医療経済はいかにあるべきかにつき専門家とともに社会全体が考えて、人間学を基本とした医学・医療を構築し、実践する時代がやってきた

訳です。

平成28年11月には千葉大
学第二外科(当時)の中山恒
明教授が創設された日本癌
治療学会学術集会の会長を
群馬大学放射線腫瘍学の
野隆史教授が務め、さらに
平成29年4月には群馬大学
外科学の桑野博行教授が会
頭となって日本外科学会大
会学術集会が、いずれも横
浜パシフィコを会場として
開催されました。いずれの
学会にもご招待をいただき
ましたのではじめのさわり
だけ出席させていただきま
した。患者に寄り添う、ま
た患者と共に考える医療・
医学がメインテーマとなっ
ていることに改めて驚きを
おぼえ、日本最大の学会が
そのような姿勢を打ち出し
たことに感銘を受けました。
千葉大学の歴史をたどっ
てみますと、日本の学会を
動かす力量と人格を備えた
何人も先生方が、以上の
ような今日の問題を何十年
も前から真剣に考え、世に
提起し続けていたことを思
わない訳にはまいりません。
その伝統が平成30年の今年
も、亥鼻で学んだ全ての同
窓生によって継承され、そ
れぞれの持ち場において具
体的に考えられ組み立てら
れて発展していくことを願
ってやみません。

神奈川のはな会

会長 小野田 昌一 (昭40)



10月初めに、なのはな同
窓会編集委員から標題の内
容で寄稿の依頼がありまし
た。お受けすると返事しま
したが、その後、川崎市長
選挙・国政選挙があり、超
大型台風又来襲が重なり、
なんとなくあわただしく過
ごすことになり、なかなか
構想がまとまりません。神
奈川なのはな会と直接の関
係はそれほどないのですが、
日本国民・神奈川県民とす
れば無視もできません。消
費税が10%になると、なの
はな会会員の負担はさらに
大きくなるでしょう。それ
でなくとも、税金だけでな
く、健康保険料・介護保険
料などの負担は上限に近い
方が多く、私の年代になる
と、相続がどうなるか不安
です。憲法改定も必須とな
り、徴兵制はないでしょう
が、孫の代では安全保障も
心配です。

さて、神奈川なのはな会
ですが、平成29年7月8日
に総会が開催され、9月に
は会報「なのはなかながわ
28号」が発行され、同時に
懸案であった会員名簿も従
来通りの形で会員のお手元
にお送りすることができま
した。
平成30年になりますと、
2月と5月に理事・地区幹
事会を開催し、7月8日(土)
に予定されている平成30年
度総会と会報29号について
の話し合いを致します。神
奈川なのはな会の内規では
会長の任期を一応3年とし
ておりますが、私は4年に
なりますので、森前会長に
ならい交代することになる
と思います。
近年、総会では西川哲男
先生(昭47)の学術講演とし
かるべき方の特別講演をお
願ひしております。平成29
年度は北里大学整形外科高
相晶士教授で素晴らしい内
容でした。平成30年度はこ
の辺が未定ですが、年明け
早々にはしかるべき方にお
願ひしたいと思っています。
どの地区も同じでしょう

静岡のはな会

会長 忍頂寺 紀彰 (昭42)



が、新しい研修医制度が始
まり、個人情報として出身
校や研修先がクローズされ
ており、困っています。こ
の辺を少しでもクリア化し、
お互いに協力し合える神奈
川なのはな会にしたいと思
っています。

明けましておめでとうご
ざいます。静岡の地より新
春のお喜びを申し上げます。
私も支部長1・5期目に
なりました。これまで本部
の(旧)常任理事会での「同
窓会活性化案」について本
部執行部より他大学実情を
聞く機会を持たせていただ
きました。ノーベル賞の受
賞者でも輩出すれば兎も角、
これだ！と膝を叩くほどの
決定打と思われるものもあ
りません。従って「継続は
力なり」で地味な会の継続
なのだろうと思っております。
そもそも新しい研修医制度
の導入で、卒業生が母校の
医局へ入る人数は減少し、
一方県内勤務医の場合は個
人情報保護の法規制のため
出身大学を調べるのが困難

の辺を少しでもクリア化し、
お互いに協力し合える神奈
川なのはな会にしたいと思
っています。

です。県内総合病院に数名
の千葉大学卒業生が在職し
ていると聞き、なのはな会
静岡支部長名で一筆した
ため入会を促しましたが、
返事さえもらえませんでした。
私の学生時代は静岡県
出身の教官や同級生がいま
した。県内の予備校が医学
部合格者を宣伝目的に発表
しますが、浜松医科大学は
何名とありますが、千葉大
学医学部の合格者は見当た
りません。こうして、県人
口減少と同様になのはな会
静岡支部の会員数も減少
しています。

そこで紹介したいのが、
静岡県西部の浜松に「やら
まいか精神」があり、この
土地の製造業に共有されて
いる精神的支柱にあたりま
す。これまでの自動車、ピ
アノ、オートバイ、光電子
倍增管に始まり、餃子を作
る機械や鯉節の輸出にいた
るまで、この「やらまいか
精神」に基づいてきたと思

信州のはな会

会長 宮坂 斉 (昭42)



われです。同窓会活性化は
年会費徴収率や、総会参加
者数等で数値化されます。
年会費徴収率に関して、本
部でもしていることですが、
ゆうちょ銀行の銀行振替口
座を開設してみました。全
くの真似です。二番煎じで
新鮮味はありません。自ら
も含めて期待される結果は
無いかも知れないと考え、
退却の道を残す意味で口座
開設の会代表者と年会費徴
収者を兼務して臨みました
ところ、銀行振り込みが6
名に対して、ゆうちょ銀行

振替口座振り込みに38名の
会員が協力してくれました。
「やってみたいとわからな
い」と感じています。総会
参加の可否は50%の会員が
返事をくれますが、参加者
は少なく講演や懇親会に一
工夫が必要と感じています。
これからも、本部はもとよ
り他支部の先生方の真似を
させていただくこともある
かも知れませんが、お知恵
を拝借することもあるかも
知れませんが、本年もよろ
しくご指導ください。

あけましておめでとうご
ざいます。
かつての信州では、年の
瀬にソバを打つ音が各家々
から聞こえてきたと言われ
ていました。今では蕎麦
屋さんのシューウインドウ
で見かけるだけになってし
まったようです。信州に住
んでいる人にとって、新年

には庭の片隅にでも「雪」
がないと新しい年を迎えた
気がしないという感覚です
が、それも温暖化のせい
か年々少なくなってきた
感じがします。
さて、長野は四季の変化
に富んでおり、冬の厳しい
寒さに耐えた後の春の芽吹
きはまた格別です。いろい
ろな木々が一斉に芽吹きま
す。木々の緑は一樣でなく
それぞれに趣がありますが、
私はその中でも特に落葉松
の新鮮な芽吹きが気に入っ
ています。また、晩秋の遠

くアルプスの雪山と麓の山の紅葉とのコントラストは3段紅葉ともいわれ、とても見事です。冬の雪に覆われたアルプスの雪山も、放射冷却でキンキンに冷え込んだ朝、日の出とともに紅色に染まる一瞬も神々しく身の引き締まる瞬間です。

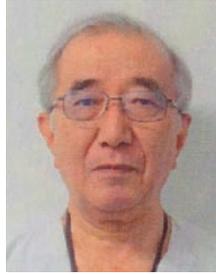
かつて、熊谷信夫先生が信州ののはな会の会長だったころ、その会には必ずと言ってよいほど元会長で長野県佐久出身の井出源四郎先生がお見えになり、皆で名調子の井出節に耳を傾けたものでした。翌日は私が運転手になり、戸隠や野尻湖、美ヶ原などを散策し、高原の草の上でおにぎりを食べながら昔物語を拝聴いたしました。井出先生も信州のご出身だったせいか、このような自然をこよなく愛しておられたようでした。

申し遅れましたが、私は昭和42年卒でインターンの後、大学の整形外科医局に14年在籍致しました。その後長野県に移り住み、北信地区にある県立須坂病院に勤務し、定年退職後の現在は住まいの近くの診療所で働いておりますが、いつしかこのような自然を愛している自分になっていました。元旦早々、冷たい空気を吸いながら千曲川の堤防でジ

ヨギングしながら神社に行き初詣するのも趣がありま

栃木ののはな会

会長 崎尾 秀彰 (昭44)



新年にあたり、栃木ののはな会の近況をご報告させていただきます。

会員数はこの10年間で1割程度減少し、110名前後です。新臨床研修制度が実施されるまで県内の公的病院は千葉大学と慶応大学の出身者が大半を占めていました。千葉大学関連では厚生連の4医療機関のうち上都賀総合病院以外は、他医療機関との統合、あるいは他大学や民間病院へ譲渡されてしまいました。研修制度により千葉大学でも卒業生の残留率が激減し、医師派遣にも苦慮されている

とに感謝しながら、旧交を温め、親睦を図り、会を盛り上げていければと思っております。

同門の諸先生方のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

のではないのでしょうか。会員の平均年齢は徐々に上昇し、高齢化社会の様相を呈しています。県内の勤務医は自治・獨協医科大学出身が増加傾向にあり、開業は獨協医科大学の卒業生が目立ちます。

創刊から昨年まで会報誌の表紙を油絵で飾っていた柴崎晃先生は昇天されました。県医師会長でありました片山一郎先生、獨協医科大学名誉教授の堀江昌平先生、上山滋太郎先生、嶋田晃一郎先生、丹羽章先生、真岡市長に選出されました福田武雄先生には幾多のご指導を賜りました。

これまでは支部総会の特別講演は千葉大学教授にお願いして学内情報や専門領域について拝聴してまいりました。今回は趣をかえ、世界

遺産に指定され、2年前に徳川家康公の四百年式年大祭が営まれた日光東照宮の宮司に依頼されていた

茨城ののはな会

会長 石川 詔雄 (昭47)



地域では医療・介護に携わる人材確保にも難渋するのではないかと危惧しています。

私事ではありますが、今年の後期高齢者の仲間入りに加えて卒後50年を迎えます。記憶力、判断力、持久力などの「力」は大幅に衰え、臨床医としての賞味期限は切れかかっています。

大学ののはな同窓会の一層の活性化を祈念するとともに、栃木ののはな会の運営にも微力ながら傾注する所存であります。本年もご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

急性期医療から始まる病床機能の転換がはかられています。今後は2025年に向けて地域医療構想の策定に向け、地域の実情に応じた医療提供体制の確保が進められるようです。今年行われる診療報酬と介護報酬の同時改定でも改革の方向性がより明確に打ち出されてゆくものと思えます。

医療機関にとっては今年も決断を迫られる年になって

ゆきそうです。

この大きな改革は、世界のどの国もいまだ経験したことのない人口の急速な高齢化と少子化が我が国で進行していることにあります。

その要因は、平均寿命の伸長と出生率の低下です。戦後の医学・医療の発展により、感染症から生活習慣病へと疾病構造が変化し、近年の高度な医療技術の進歩と国民の健康志向の高まりが相まって、平均寿命は伸張、世界トップに上り詰めました。この状況を私たちはのはなの地で学び、医学・医療の進歩発展を体験してきました。千葉大学第二外科にいた当時の私は、

「医師の体力と気力が患者を救い、医師が諦めたら患者は助からない」との確信をもち、頑張っていました。

現在もその思いが変わりはありません。最近の数年間、癌・心臓病・脳卒中の患者さんの多くが新たな治療技術により、信じられないくらい早く元気に社会復帰してゆきます。外科医療が不要になる時代の到来が目前あるような予感すらありますが、患者と医師の関係は淡泊になった感があります。

一方、少子化、これは日本の存続の鍵を握る重大な問題です。女性の晩婚化や出

産年齢の高齢化があげられますが、原因は不明、早急な原因究明と対策が必要です。目下、国は改革路線を進めていますが、患者に寄り添う質の高い医療の確保、医療の質に関する内容が見えてこないことが気になります。

平成も終盤に近づいた年頭に当たり、我が国の将来を思うと不安になります。昨春秋、会長として初めての茨城ののはな会総会を開催しました。茨城ののはな会の課題の1つは、会員数の減少、特に平成卒の先生方の入会が少ないことです。そこで平成27年の総会から、それまでの隔年開催の総会を毎年開催としました。そのうち平成奇数年の総会では茨城県内の先生方からの講演・話題の提供をもとに親交を深めることにしました。幸い筑波大学には、千葉大学から教授として迎えられる先生やそのグループの先生もおり、全員、茨城ののはな会員として千葉伝統のチャレンジ精神で活躍しています。昨春秋の総会の参加者は28名でしたが、その中には4名の平成卒の先生方の入会もあり、懇親会では皆さん、楽しく語り、親交を深め合うことができました。今年は大学の先生

に特別講演をいただき、関東近県のものはな会会長先生もお呼びして総会を開催

千葉県ものはな会

会長 秋葉 哲生 (昭50)



皆様、明けましておめでとうございます。

私たちは保険医にとつて、今年には医療保険、介護保険の同時改定の年に当たります。歳入が思うように伸びない中での改定だけに、明るい見通しは持ちにくいわけですが、医療という基幹的な福祉を担う立場にいるだけに、われ一人幸運を望むというわけにも行かないでしょう。ここはひとつ踏み張りどころと申せます。

さて、わが母校千葉大学医学部も、幾多の困難に直面しているという点では、われら零細開業医と変わりますまい。自発的な研究資金導入の必要性が声高に叫ばれているやに聞いております。

千葉県ものはな会では、

したいと考えています。よろしく願い申し上げます。

ろしくお願い申し上げます。よ

山梨ものはな会

会長 中澤 肇 (昭52)



あけましておめでとうございます。

平成29年6月29日の山梨ものはな会総会において、会長に推荐されました。長年にわたり会長職をお勤めいただきました。清水天(昭39)前会長の後任として、微力ながら山梨ものはな会の発展に尽力する所存です。

歴代の会長は、いずれも人間的にすぐれ、医師としても立派な先生方でしたので、まさか私などにその大役が回って来るとは、思ってもいませんでした。

山梨ものはな会は、会員数30名の小さな支部ですが、まとまりがよく、お互いに顔見知りで居場所もわかっ

くそうではありませんか。ただいまから新たな一歩を始めましょう。ご理解をよろしくお願い致します。

ている間柄です。年一回の総会後の懇親会では、お互いの近況を確認しあい、母校での思い出話に花を咲かせ、和やかな楽しい会となっています。

事務局は、細田和彦(昭58)、鶴田好孝(昭54)の両名が担当しており、何かと助けていただいております。同窓会本部、各支部の先生方には、よろしくご指導の程、お願い申し上げます。



東京ものはな会

会長 吉原 俊雄 (昭53)



新年明けましておめでとうございます。東京支部は平成29年6月の東京ものはな会総会において新しい役員体制となりました。本年も新たな気持ちで千葉大学ものはな同窓会・東京支部の充実を図りたいと思っております。昨年同様、何卒よろしくお願い申し上げます。

東京ものはな会には大 学・研究施設の職員と教授や教授OB、千葉大学教授OB、病院群、地区の診療所群、研究所、日本医師会、厚労省はじめ行政に携わる会員、勤務先は都外でも住居が東京の先生も含めますと多くの職種の先生が活躍しておられ、1000名余りの人数を擁しています。昨年11月には厚労省入省の若手卒業生達と東京ものはな会会員と懇談の場も設けました。千葉大学ものはな同窓会と他の地区支部でも

同様の傾向があるかもしれませんが、初期臨床研修制度の変革のあとの卒業生の行き先は多様で、東京都内でさえも勤務先不明のことが多々あります。千葉大学医学部の将来を考える上で、千葉大学医学部および附属病院、千葉大学関連施設のマンパワーのみでは多様化する卒業生の把握は不十分で、各都道府県の同窓会支部組織、各地区の会員と有機的に連携を図っていくことの重要性が増しています。

同窓会が医学部学生、初期臨床研修医の包括的な教育に関わり、千葉大学医学部が一層全国屈指のすばらしい医学部になることを望んでいます。

少子高齢化が加速する中、医療の置かれている状況も必ずしも明るいことばかりではありませんが、東京ものはな会として会の充実とともに、全国組織である千葉大学ものはな同窓会の発展に寄与できる支部体制にしたいと考えております。本年6月の総会は東京ものはな会が担当ですので鋭意準備したいと存じます。改めて本年が同窓会員にとって良い年であることを祈念いたします。

叙勲、褒章その他祝事に関係された方は是非同窓会事務室までご一報下さい。編集部でも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

各地ののな会 だより

安房ののな会

平成29年10月20日(金)18時30分より、安房ののな会総会が、たてやま夕日海岸ホテルに於いて、開催されました。今回は、千葉大学大学院医学研究院細胞治療内科学教授、横手幸太郎先生をお迎えして行われました。定例総会は本位田泰介会長の挨拶に始まり、私、天野が、平成28年度の収支会計報告を行い、原久彌先生の監査報告と、円滑に進行し無事終了致しました。

横手幸太郎先生には、『高齢者糖尿病の薬物治療と包括的管理』と題する講演をして頂きました。高齢者は10～11歳若返っているのです、高齢者の定義自体を変えなければいけないこと、そして介護が必要となるような疾患を予防するためには、若壮年からの予防が必要であること、そしてそのためには、若いうちから血糖を高くしないことが必要であることを教えて頂きました。また、既に高齢になってしまった糖尿病患者では低血糖を避けること、高齢者はすでに糖尿病以外にもいろいろ合併症を持っているので、病態が多様性に富んでいること、臓器予備能の低下に伴い、薬剤の効果が増強しやすい、すなわち副作用が出やすいことに注意が必要になるそうです。実際の薬剤の使い分けや血糖コントロール方法まで、詳しく教えて下さいました。

より長くよりよく生きるためにはどうしたら良いか、考えさせられました。その後部屋を移し、全員で横手先生を囲んでの記念撮影を行った後、マイクをパスで、波奈寿司総本店に移動し、本位田先生の「乾杯」の御発声で、懇親会に移りました。懇親会の席で

も、横手先生は気さくに會員とグラスを交わし、糖尿病以外の脂質代謝異常などの病態についてもお話し下さいました。学生時代の話に花が咲いたり、大いに語り合い盛り上がりました。写真右から



市川浦安ののな会
平成29年11月4日(土)に市川市の山崎製パン企業年金基金会館で、講演会と懇親会を行いました。今までは懇親会のみで、講演会を行ったのは初めてです。講師には千葉大学細胞治療内科学教授横手幸太郎先生をお招きし、「専門でない先生のための糖尿病診療 Update」の演題でお話いただきました。糖尿病に関する幅広い内容を分かりやすく教えて

前例・水谷正彦(昭52)、本多満(昭37)、青木謙(昭36)、横手幸太郎教授(昭63)、本位田泰介(昭28)、原久彌(昭34)、関谷信平(昭38) 後列・天野晋(平3)、辻博勝(平2)、林宗寛(昭60)、伊賀寧(聖マリ医大・平2)、武内重樹(北里大・昭53)、黒野隆(東海大・昭59)、原太郎(聖マリ医大・平4)、相正人(島根医大・平9) (天野晋)



いただきました。特に最近増加している高齢者糖尿病、中でも認知症を伴う患者にどのような方針で治療していくべきかの話が参考になりました。その後の懇親会でも活発な質疑応答が続き、いつもの懇親会と違って、アカデミックな話題が中心になりました。加藤友衛支部長のあいさつと乾杯で懇親会が始まり、竜宗正先生

の中締めで終了しました。写真右から 前例・田中則好(昭40)、加藤友衛(昭38)横手幸太郎教授(昭63)、竜宗正(昭43)、大森耕一郎(昭46) 後列・鈴木良一(昭54)、小野元子(昭51)、小野和則(昭51)、篠塚正彦(昭51)、大貫忠男(昭46) (加藤友衛、篠塚正彦)

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたらののな同窓会にご一報ください。
電話(043)202-3750
FAX(043)202-3753
e-mail : nfo@inohana.jp

ク ラ ス 会

昭和24年卒クラス会

昭和24年卒のクラス会を10月15日(日)に開催しました。

私は昭和35年以来、毎年クラス会を一人幹事でやってきましたが、今年は、140人の同級生のうち、連絡のつくのがとうとう23人になってしまいました。寄



る年波で仕方がありません。足の便を考えて、ここ数年は御茶ノ水の銀座アスター御茶ノ水賓館で日曜の昼に開催しております。今年の出席者は、鈴木直基・中島令一・中村卓郎・福永和雄・北条弘・長澤仁一の6名でした。寂しい限りです。

写真右から
前列・北条弘、福永和雄、中村卓郎、長澤仁一
後列・中島令一、鈴木直基 (長澤仁一)

さんろく会(昭36)

平成29年の「さんろく会」は10月15日小雨降る東京上野精養軒本館において開かれました。幹事は千葉在住の数名の有志なのですが名ばかりで、準備の殆どをしてくれた加藤昌義君の司会のもとに、まず本年鬼籍に入られた近藤省三君、末吉貫爾君、中田義隆君のご冥福を祈り黙祷をささげました。そして万年マネージャーたる青木謹君の挨拶で始まり、話の中でわが学年は前後の学年に比べて他界された方は少ないとのこと、先日届いた「ゐのはな同窓会名簿」を見ると同期83名のうち23名が他界されていました。次いで再会を喜び乾杯、うたげとなり、今回は参加者同士がなるべく話し合いができるようにと席を指定せず、出席者分の椅子を用意してビュッフェ方式としました。しかし、会が始まると殆どの方がすぐに椅子に座る始末、それもそのはず、出席者は29名とその奥方6名の35名で、奥方を除くと全て傘寿を超えておりました。

近況を含めて何かスピーチとなり、その全てを紹介することはできませんが、86歳で管楽器を吹き、社交ダンスを楽しむ人、個展を開くほどに絵画に親しむ人、また能をきわめたり、ゴルフや山歩き、旅行を楽しんだりの人、そして本業に精を出している人もおりました。話の中で、もの憶えが悪くなったとのが多く聞かれましたが、おやっ(?)という人はいないようで安心。いづれにしても体に何かと問題を抱えているもの、多くない余命、生き甲斐をもち前向きに生きて行こうということが語られていたようです。また今回欠席された人の中でも体調不良に因る人もいますが、仕事が多忙で、また学会のためという方もおりました。あつという間に決められた時間が過ぎ、長谷川修司君より前年度の会計報告、なにかと連絡役をつとめてくれた黒田健昭君より、これからの「さんろく会」についての話があり、用意したアンケート用紙に記入してもらい、その結果で今後のことを考えることとした。来年は野尻雅美君を中心とした東京在住の人に幹事をお願い致し、関幸雄君の「来年また元気で会いましょう」との挨拶、最後に集合写真を撮り散会となりました。

写真右から

前列・白石夫人、小池夫人、前嶋夫人、三宅伊豫子、副島訓子、長谷川幸子、小倉敬一、吉井逸郎、黒田健昭二列目・藤塚立夫、藤塚夫人、谷合夫人、山崎夫人、山崎修道、野尻雅美、岡田



信道、加藤昌義、谷口滋、山角博、関幸雄、網代洪三列目・白石博康、鈴木光野本一夫、小池宏之、谷合明、前嶋清、田部井徹、福山悦男、小野澤君夫、長谷川修司、松本生、松本一暁、青木謹 (前嶋清)

三八会(昭38)

記録更新すぐめの異常天候続きも、秋風爽やかな季節に移り変わる気配のなかで、抜けるような晴天に恵まれた10月4日(土)午後、お茶の水ニコライ堂そばの銀座アスター御茶ノ水賓館で、今年も恒例の三八クラス会が開催された。最遠路和歌山からの玉置哲也君のS.E.M.到着で参加予定者21名(ご夫人2名を含む)全員が揃い、加藤友衛君の司会で開会となった。名古屋から2年ぶり参加の松井宣夫君の挨拶・発声による乾杯のあと、幹事代表香西襄君から平成28年度の活動報告、会計報告が行われ、10万円の合計残金も拍手で評価された。会場は高台の高層階から遠望に渋谷・品川方面を見下ろす窓際を背に、椅子を並べた立食方式で、早速三々五々動きながらの各自好みの飲食歓談タイムとなった。それが一段落すると、その時の着座順で全員が、近況報告その他自由に発言することとなった。卒後54年、その間定年相当年齢も過ぎて後期高齢者の年齢域に達し、現在に至る生活・活動環境を反映して、流石に発

言内容は多彩で、現役時と変わらぬ活動の話、多忙の中、大病を克服した闘病体験談(大木勲君)、歩行鍛練の話・・・など様々ななかで、広域におよぶ不登校児童対策活動(木下敏子さん)、変わらぬ政治的信条吐露(蘭部和子さん)、ご夫人の方の、NPOその他のボランティア活動とか、地域社会の中核としての社会貢献活動など、現代を反映するような、ご婦人たちの積極性を示すお話しがとても印象的であった。

今回不参加のため、恒例の浅野尚君の歌声を聴けず、また若新政史君の語りも聞けなくて、一抹の物足りなさもあつたが、楽しい時々のたつのは早く、所定の時間が経ち、集合写真撮影後、三木亮君の再会を約す閉会の言葉を後に散会した。

報告を閉じるにあたり、今回もプロデュース兼ゼネラルマネージャー的役割を果たしてくれた加藤君の労を多としたい。

写真右から

前列・・・大木勲、野本高志(故人)夫人、松井夫人、沖田正彦、木下敏子、藤本重義、蘭部和子、加藤友衛
後列・・・松井宣夫、村山憲太、玉置哲也、三木亮、寺島市郎、楯二郎、熊田正義、宮



下久夫、佐藤裕俊、大津裕司、鳥羽剛、谷修一、香西 襄

(沖田正彦)

43卒クラス会(昭43)

今年の43卒のクラス会は10月21日に東京ステーションホテルで開催されました。今年は43卒にとつてはある意味特別の年に成つてしまいました。その為、幹事長の盛克己君はいつもより気合が入っているように見られました。その理由は、6名のクラスメートが今年に入つてから御逝去されてい

からパンロップ君が、上海からはヨシさん、林さんご夫妻が出席され、久しぶりの再会を喜び合つたのですが、やはり全体として、旅立つた同級生を悼む声が多く聞かれました。

二次会は同じホテル内で場所を移して行われましたが、出席者の約半数が参加いたしました。やはり昨年まで酒を酌み交わした友人が減つて来た事は非常に残念ですが、致し方ありません。お互いの健康を祝すと同時にいつまでも元気で再会しようと呼び合つてお開きとなりました。来年は私たち43卒が卒後50周年を迎えます。盛幹事長の意向で久しぶりに記念会は千葉に戻つて開催する事と成りました。一人でも多くの同級生が健康で集えることを祈念している次第です。

写真右から

前列・・・ヨン・セーシン(楊思勝)、玉井輝章、盛克己、高岡邦子、神津玲子、鳥居雅江、林雅恵、和泉佳子、舟橋満寿子、星野聡、中村宏二、列目・・・青木靖雄、藤塚光慶、保坂忠成、鈴木秀、鹿島孝、堀井文千代、高山直秀、松清央、飯田秀治、古山信明、關克義、蘭部友良三、列目・・・東紘一郎、唐澤祥人、齋藤弘司、パンロップ・

チャルワニツチ、鳥居敏明、諏訪敏一、一瀬正治、佐野元昭、北原宏、千葉彌幸、最後列・・・童宗正、鈴木昭一、

赤井壽紀、和田源司、田中寿一、滝川弘志、久野宗寛、小山哲夫、海野健 (中村 宏)



528会
(昭52入学・昭58卒業)

平成29年2月5日(日)528会が開催されました。この会は卒業20年目にはじ



めて開かれ、その後特に決まりもなく、不定期に何かあると誰かが声を上げて、それから企画されるような形態でやっております。今回は岩立康男君が本学

の脳神経外科学講座の教授に就任されたことがきっかけとなり、開催されることになりました。せっかくだからと最近獨協大学のアレルギー内科学教授に就任された倉沢和宏君と千葉県こども病院の院長に就任された星岡明君も一緒にお祝いしようということになりました。会場は幕張のホテルニューオータニで、当日は34人の同級生が出席し、近況を語りつつ、3人のお祝いをしました。

姿かたちはだいぶ見る影もない者も、ほとんど変わらない者もさまざまですが、皆それぞれそれなりのところで活躍しています。一浪で入学した者は今年還暦を迎えます。年回りから病院・診療所を背負っている者が多く、後輩や二世を育てている者も多い状況です。皆、そろそろ今後の道を考えているところでしょう。そんな中で、同級生との交流はひとときの安らぎでありました。

また、2〜3年後に開催する予定として散会しました。

写真右から

前列・山崎正志、剣持敬、和田佑一、星岡明、岩立康男、倉沢和宏、山本修一、近藤克則、山崎俊司、井合

洋
中列・滝口裕一、後藤茂正、岡嶋祐子、鈴木俊英、小宮山伸之、中島弘道、景山雄介、中川宏治、星誠一郎、長門義宣、畦元亮作、井合瑞江、森明子、秋山純子、

平成2年卒業生同期会

平成2年卒業生同期会は、消化器内科(旧第一内科)が幹事を担当し、平成29年7



今田進
後列・加藤雄一、熊澤亮一、山下純男、岸幹夫、豊崎哲也、西村元伸、野本実、大谷地直樹、大野博司
(今田進)

月1日(土)に京成ホテルミラマールにて行われました。中里道子(旧姓、青山)先生が、成田に新設された国際医療福祉大学の精神科教授に就任されましたので、そ

の御祝いも兼ねての開催でした。30名の出席者を迎え、終始和やかな雰囲気、思い出話や現況を語り合いました。

写真右から

最前列・丸山紀史、荒瀬佳子、佐野(竹中)英子、中里(青山)道子、中里毅、清水栄司、鈴木啓悦
二列目・鈴木敏幸、小林信義、大淵徹、土方康義、池田良一、野澤聡志、藤井克則

三列目・岡本和久、石和田稔彦、辻博勝、阿部功、岡田吉弘、安藤総一郎、鶴樞実
最後列・根本俊光、斎藤功、佐藤悟郎、濱田洋通、高柳建志、佐藤宏、中川晃一
(丸山紀史)

05会(平5)および
教授就任祝賀会

平成29年9月17日、東京駅近くのミクニ・マルノウチにて、平成5年卒同窓会改め05会が開かれ、台風18号の接近にもかかわらず、47名が参加しました。

まずは菱木知郎君より、残念ながら早逝されたふたりの同級生、浅野康治郎君(平成26年11月ご逝去)と今中信弘君(平成29年5月ご逝去)を偲ぶ挨拶があり、皆で黙祷を捧げました。その後、

ともにラグビー部員でムードメーカーだったお二人の写真を中心に飾り、伊藤雅昭君の乾杯で賑やかに同窓会をスタートいたしました。三度目の同窓会でしたが、会うのは卒業以来という人も多く、初めこそ気恥ずかしさで固かったものの、すぐにあちらこちらで歓談の輪が出来ました。

会の中盤では、同窓会が開催出来なかった間に誕生した五人の教授の就任をお祝いしました。名簿順に、花岡英紀君(千葉大学医学部附属病院、臨床試験部教授)、廣瀬晃一君(国際医療福祉大学医学部、リウマチ・膠原病内科教授)、村田泰章君(帝京大学、総合医療センター、整形外科教授、本橋新一郎君(千葉大学大学院医学研究科、免疫細胞学教授)、横須賀忠君(東京医科大学医学部、免疫学教授)となりました。

引き続き「同窓会と言えば校歌合唱」ということで、懐かしの(?)千葉大学校歌を、小林伸宏・(落合)紀子夫妻のウクレレ伴奏と美しい歌声に合わせて歌い、記念撮影となりました。

閉会時間が近づくにつれて名残惜しさも増し、自然と「次はいつ？」の声が開かれました。「次は三年後、東京オリンピックが終わったら会おう！」と伊藤君による一本締めで再会を約束し、お開きとなりました。

二次会には中田敏博君も駆けつけてくれ、総勢30名で語りつくしました。風雨がひどくなる前の散会ではありましたが、大阪から来てくれた西川和弘君のご帰宅は夜中の二時半となりました。

卒業してからの二十四年間、それぞれが様々な時間を過ごしてきましたが、今回の同窓会は原点に立ち返るとともにお互いに刺激し合い、リフレッシュできた貴重な機会となりました。参加してくれた方ももちろん、連絡をくれた同級生の皆さんに心より感謝いたします。

写真右から

前列目：奥(塚原)佳代、松浦(沼田)朋子、尾崎由佳、廣瀬晃一、村田泰章、花岡英紀、本橋新一郎、横須賀忠、村手秀子(今中信弘)、清水(福田)サラ、荒木(植田)由美子
二列目：増田真一、岸宏久、加藤一喜(浅野康治郎)、大木(下田)麻理奈、原(荒瀬)



佳奈子、今井雅子、館野規子、佐伯(市川)美奈子、溝口研一、杉田達哉、萩原憲治、徳永進
三列目：増田(池間)理重子、福田和司、坂尾誠一郎、清水一起、土田智一、関谷武司、小林伸宏、伊藤雅昭、西川和宏、町田利生、小林

(落合)紀子、山口淳一
四列目：山下桂志、藤本善英、新行内雅斗、山口伸幸、英裕雄、波多野治、柴田陽一、伊達太郎、菱木知郎、角田寿之、本田隆文、鈴木陽一
(増田(池間)理重子)

吾ら43卒海外旅行隊 (昭43)

私達43卒の有志は毎年、海外旅行をしています。初回は平成10年、ニューヨークから開始しましたが、その際は、同級生のヨンスン、林さん夫妻を訪ねる形で始まりました。それから同級生の元を訪ねる形でタイ、上海、台湾と巡り、数年前から行きたいところに行きたい人が行くところに行き、当たり前の旅行と成ってきております。スイス、オーストラリア(東と西の計2回)、カナダ、イタリア、スペイン、ポルトガル、クロアチア、スロベニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、更に少人数ではあったのですが、南アフリカ等を巡ってきています。そして今回はバルト三国を周遊して参りました。この様に、南米を除く多くの国を巡ってきておりますが、その経験を通じて改めて感じている事は、正に平和である事の有り難さ、重要性、更に日本人に生まれて来てよかったと言う実感です。特にボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボに入ったときに驚いた光景は1992年4月から始まり、3年半続いた民族浄化の争い(ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争)の跡が未だ色濃く残っていた事です。道を挟んで隣人が撃ち合うという悲惨な戦いの終息後、既に20年を経過した今日でも多くの建物の壁に戦争の傷跡が残されておりました。現在でも道に面した建物には銃弾の跡が生々しく残され、ひどい所では一平方メートル当たり数百発の弾痕が残っていたのです。それを見て、我々一同思わず無言になってしまった事が思い出されます。然し、何と、道行く人は笑顔で往来していたのです。また、驚いたことに、走っている路線バスにはすべての車両の背面に日の丸が描かれていたのです。勿論これは戦後復興の為に日本の援助で開始された公共交通手段としてのバスの運行が有った為だったのですが、そのお陰でこの地の住民の生活がいち早く復興されて来たとの事でした。これは多分、殆どの日本人が知らない事実ではないかと思われませんが、この様な援助をして来た日本の姿勢に改めて感激し、かつ皆大いに胸を張りなおいしたところでした。

さて、今年(昭43)は9月中旬に6名の43卒の仲間とその家族併せて12名のツアーが遂行されました。場所はバルト三国(リトアニア、ラトビア、エストニア)でした。今回、初めに訪れたリトアニアでは、6000人ものユダヤ人の命を、日本政府の指示を無視して日本通過ビザを発給することにより救った、当時のカウナスの外交官であった杉原千畝記念館を真っ先に訪れました。その際も日本人が未だに多くのリトアニア人の賞賛を得ている事が判り、思わず心豊かになったことが思い出されます。この様に世界各地を回って行くことにより、改めて自分自身を含め、

自身の生活を見直す機会を得た事は非常に有意義であったと思います。この様に新しい発見と感動が得られる地域が他にも数多くある事と思われませんが、私達は健康に留意して、可能な限りこの様な旅行を続けて行きたいと思っております。

写真右から
前列：中村夫人、東夫人、神津玲子、玉井夫人、玉井輝章、滝川夫人、中村宏、久野宗寛、久野夫人
後列：東紘一郎、神津夫君、滝川弘志
(中村 宏)

リトアニアのシャウレイにて



リトアニアのシャウレイにて

研修プログラム

眼科は面口---

千葉大学大学院医学研究院 眼科学

准教授 馬場 隆之(東京医歯大・平9)

千葉大学医学部眼科学教室は明治15年(1882年)に発足し、135年の歴史を持つ由緒ある教室です。現在は、山本修一教授の指導の下「最高水準の眼科医療を提供し、より良好な視機能を守る」ことをミッションに掲げ、日々頑張っております。

眼科で実習を行っている学生や、初期研修医には少しでも眼科の面白さをわかってもらえるように心がけてながら、一緒に診療にあたっていきます。眼科の魅力は何と言っても治療の結果が分かりやすいという点にあります。その最たるものが白内障手術ですが、手術翌日の患者さんが「見えるようになったらよかった!」とおっしゃるとき、眼科医冥利に尽きるといっても思っています。また千葉大学眼科には、千葉県の眼疾患の「最後の砦」として多くの難治疾患を持つ患者さんが日々紹介されています。高齢化が進

20例以上の手術を行っています。以前ですと、これだけの症例を手術するために深夜までかかることもありましたが、最近の手術器械の進歩と顕微鏡の改良により手術時間はぐっと短縮され、業務時間内にはほぼ終了できるようになりました。手術の低侵襲化は患者さんの社会復帰を早めることになり、入院期間も従来

み、眼疾患の罹患率は上昇しており眼科医の需要は増えるばかりです。中には網膜剥離や緑内障のように、失明の危機に瀕した疾患の方も多く、千葉大病院の結果たすべき役割は非常に重要です。これら難治性の疾患を治療できたとき、その過程が困難であるほど、喜びを患者さんと分かち合えるのです。時には壁にぶつかるともありますが、医師であれば困難を乗り越えた時に大きく成長した経験をもた持っていると思います。患者が医者を育てる、という事は眼科でも言えます。

やや抽象的な話になってしまいましたので、千葉大眼科の紹介に戻ります。当科では年間約2000件の手術を行っており、特に網膜硝子体疾患と緑内障の手術が多いことが特徴です。手術室は3部屋並列で行える体制になっており、毎週火曜日と木曜日はそれぞれ

医のサポートのもと、多くを実際に自分の眼で見て学ぶことが臨床医としての真の実力になっていきます。患者さんのQuality of vision

千葉市立海浜病院

副院長・千葉大学医学部臨床教授

金澤正樹(山梨医大・昭62)

当院は、海浜ニュータウンにおける医療機関として整備計画され、昭和59年に開設されました。千葉市美浜区内に位置し、近隣に発展を続ける幕張新都心があり、隣に千葉県救急医療センターがあります。病室からは東京湾が一望でき、晴れた日には富士山も眺望できる恵まれた環境です。千葉保健医療圏(人口97万人)において、初期救急を担う

現在、眼科後期研修医は5名です。それぞれ4月以降、外来診察、病棟での術前・術後管理、白内障手術執刀など濃厚な研修を行っています。当科の特長として、手術症例を含め全体の症例数が非常に多く、短期間に多様な疾患を主治医として経験できることがあります。教科書で勉強することも勿論大事ですが、指導

を守るという、大変なやりがいのある仕事を一緒にしてくれる仲間を眼科では待っています!

度の救急車受け入れは2588件で、夜急診と併せて5427件でした。うち、小児は2052件でした。また災害拠点と地域がん診療連携協力病院の指定も受けています。

病院理念の「市民に選ばれる市民のための安心で心あたたまる病院」に沿い、胎児から高齢者まで安心して総合診療が受けられるように整備が進められ、病床数は平成29年10月1日にNICUが6床増え、293床となり、診療科は平成27年7月以降、小児外科、内分沁内科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科の5科が加わり27科となりました。常勤医は68名、非常勤医は9名です。6名の初期研修医と10名の後期研修医を含みます。(平成29年10月1日現在)

平成16年より協力型臨床

研修病院として千葉大学医学部附属病院、千葉市立青葉病院、千葉県立病院群から多くの初期研修医を受け入れてきました。平成22年に基幹型臨床研修病院の指定を受けてから、当院のプログラムでの研修も始まりました。協力型病院は以下の3施設です。(1)千葉県救急医療センター…3次救急の研修をします。(2)千葉市立青葉病院…内科の各領域が揃い、救急科、精神科含

児童精神科)、皮膚科など当院にない科が研修できます。(3)東京女子医科大学八千代医療センターの小児科を1、2か月研修します。自由選択科の期間は11~12か月と長く、自由度の高い研修設計が可能です。将来、小児や周産期の専攻医を目指している先生には、当院と協力型臨床研修病院の特色を生かして、小児科のほか、産科、新生児科、小児外科、PICU研修や児童精神科



研修などが選択可能であり、充実した研修が可能です。平成30年度の募集人数は5名です。

平成30年度から新専門医制度が19領域で始まり、昨年、日本小児科学会より、当院が小児科専門研修の基幹施設として承認されたことを受け、現在、小児科専攻医3名が研鑽を積んでいるところです。平成30年には、千葉大学医学部附属病院の連携施設として、小児科の他、内科、外科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、総合診療科の領域で専攻医の研修が始まります。ゐのはな同窓会の先生方とともに、明日の千葉県の医療を担う医師の育成に注力していきます。

最後に千葉大学からの派遣または出身の常勤医師のうち、ゐのはな同窓会会員の先生を紹介致します。
院長：寺井勝(昭53)、副院長：北和彦(昭59)、金澤正樹(山梨医大・昭62)、診療局長：齋藤博文(昭63)、吉岡茂(昭63)、内科：行木瑞雄(金沢大・平5)、間山貴文(金沢大・平13)、循環器内科：宮原啓史(信州大・平11)、長谷川敦史(平11)、堀江佐和子(獨協医大・平15)、消化器内科：野本裕正(慈恵医大・平6)、太和田勝之

(平12)、薄井正俊(平17)、外科：若月一雄(秋田大・平元)、宮澤康太郎(平11)、消化器外科：須田浩介(平9)、乳腺外科：塩原正之(秋田大・昭63)、整形外科：河野元昭(平10)、形成外科：久保麻衣子(平17)、泌尿器科：石原正治(平6)、産科：飯塚美徳(昭63)、中崎裕夏(金沢大・平2)、榎健司(山形大・平7)、佐藤美香(平20)、中村名律子(平20)、小児科：阿部克昭(平13)、廣瀬陽介

(平16)、小玉隆裕(平20)、寺中さやか(平21)、光永可奈子(平22)、小児外科：小原由紀子(平20)眼科：若山美紀(順天堂大・平11)、耳鼻いんこう科：大塚雄一郎(平7)、久満美奈子(大分医大・平13)、船越うらら(平17)、新生児科：鈴木康浩(平4)、大橋美香(平18)、放射線治療科：荒木仁(平4)、麻酔科：蓑輪百合子(平6)、佐藤由美(平8)

研修医だより

泌尿器科での後期研修に臨んで

千葉大学医学部附属病院 泌尿器科



私は2012年に千葉大学医学部を卒業した後、JCHO東京新宿メディカルセンター(旧東京厚生年金病院)で初期研修を行いました。初期研修中に同門の先輩でもある部長を含めた先生

方のもとで泌尿器科をローテートさせていただき、その多岐にわたる診療範囲に興味を持ったこと、親身に指導してくださった泌尿器科の上級医の先生方のおかげで、泌尿器科への進路を決めました。2015年出身大学である千葉大学医学部泌尿器科学教室へ入局し、その後、後期研修として引き続きJCHO東京新宿メディカルセンターで2年間研修させていただきました。

金 尚 志 (平24)

後期研修医としてスタートしてからはより一層チームの一員として迎え入れていただき、初期研修中と比べて少しずつではありますが任せていただく仕事の責任も増えていきましたが、教育的で、いつでも相談に乗って下さる上司の元で貴重な経験を積ませていただきました。JCHO東京新宿メディカルセンターは都心にある病院ではありませんが、地域に密着した市中病院の側面が強く、初診外来で担当した方の入院中の管理、手術、退院後の外来フォローまで担当させていただきました。内科と外科双方の側面を持つ泌尿器科ならではの、患者さんの顔の見える診療を経験させていただいたことは、自身の医師としての姿勢の礎となっており、また学術的にも前立腺がん、結石など多分野で功績を残されている上司の元で発表の機会をいただくことも有り、拙い私の発表を親身に指導していただきました。

第8回白衣式のご案内
(2017年度 Student Doctor)

日時：2018年1月26日(金)
午後2時～4時
(受付開始午後1時30分)

場所：千葉大学医学部 記念講堂

問い合わせ先
千葉大学医学部学務係
043-222-7171(内線 5061)

外来では大学病院ならではの希少な疾患の方から、市中病院での治療に難渋し紹介受診された方など幅広い症例について、疑問があればいつでも相談に乗っていただける上級医の先生にご指導いただきながら貴重な経験をさせていただいています。

泌尿器科の手術日は週2回で、手術日はチーム一丸となって手術に臨みます。大学病院では、市中病院では合併症が多く手術が難しい症例の手術も多く、熟達した上級医の先生方と手術に入らせていただくことで、その技術を少しでも盗めるよう研鑽しております。また泌尿器科入局一年目の後輩達にも可能な範囲で



新薬が生まれる。
世界が変わってゆく。

学内情報

第15回 亥鼻祭の報告

2017年度亥鼻祭実行委員会委員長
医学部3年 上條 恵莉子

2017年11月5日(日)に、第15回亥鼻祭を無事開催できたことをご報告いたします。当日は晴天に恵まれ多くのお客様に来ていただきました。今年度は初めての一日開催となり、どのような亥鼻祭になるか、実行委員の間でも不安と期待が入り混じる状況でしたが、当日は2500人を超えるお客様に来ていただきました。14時半の時点で、予定していたパンフレットを配り終える盛況ぶりでした。「開催のお知らせ」においてもご報告させていただきましたが、今年度は亥鼻祭の開催が危ぶまれておりました。その中で、私たちは運営主体を医学部3年にするとともに、1、3年の医学部・薬学部・看護学部の学生を中心に亥鼻祭実行委員サークルを立ち上げ、新たな亥鼻祭を作り上げ、新たなことを目指し、活動してまいりました。

今までの亥鼻祭のままで、開催が危ぶまれるという危機感を実行委員全員が感じ、新しい風を吹き込むことを強く意識しました。今までの企画に加え、地域の方々及び留学生による出店や「レモネードスタンド」という小児がん患者さん支援の募金活動、西千葉キャンパス環境ISO学生委員会による企画、各学年による学年企画などの新しい企画を通し、今まで亥鼻祭に参加したことのない多くの学生が今年は参加してくれました。亥鼻祭終了後には、多くの学生より来年度以降も参加したいという声ももらいました。亥鼻祭を学生だけでなく大学・地域全体で作りに上げたことを、一人ひとりが強く実感したかけがえのない一日になったと思います。

開催が危ぶまれている中、本当に多くの温かいお言葉をお頂きました。皆様の温かいご支援により、最高の亥鼻祭を作り上げることができました。当日は、お客様も、参加している学生も笑顔が輝いており、活気があふれる亥鼻キャンパスを自分たちの目で見ることで、本当に夢のような一日でした。亥鼻祭の開催が決まってから半年間、学年・学部を超えた多くの仲間と同じ目標を目指し、走ることができたのはとても貴重であり、幸せな時間でした。今年度の亥鼻祭の運営を通して、来年度以降に繋がる仕組みの土台を作ることができましたので、来年度はまた新たな魅力を持った亥鼻祭を後輩が作り上げていくのをサポートしていきたいと思っております。最後になりましたが、亥鼻祭が新しく生まれ変わる機会を下さった全ての方々



「ホームカミング・パーティー2017」開催報告

2017年11月5日(日)午後3時より、亥鼻祭当日に合わせて「ホームカミング・パーティー2017」が同窓会館で開催されました。徳久剛史千葉大学学長(昭48)はじめ、多くの来賓もお見えになり、同窓生、医学部学生など140名を超える参加者を得て大変賑わい盛会となりました。シヨート・プレゼンテーションとして「千葉県のはな会次世代リーダー育成海外留学奨学制度」を活用してハーバード大学公衆衛生大学院に短期留学した中西恵さん(医学部3年)より勢いのある報告がありました。当日は託児所も設け、家族連れの同窓生も安心してご参加頂けました。千葉大学のはな同窓会、千葉県のはな会、東京のはな会からご支援を頂き、さらに同窓生からのご寄付や多くの差し入れも頂いて開催することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。来年度以降も開催の見通しですので、皆様のご参加をお待ちしております。

吉村健佑(平19)
三澤園子(平11)
岩田秀平(医学部6年)

第60回 東日本医科学学生総合体育大会

優勝 硬式野球部

千葉大学硬式野球部は去年に引き続き東医体連覇を果たしました。苦しい場面も数多くありましたが、多くのOB、OGの方々の応援もあり、チーム一丸となり優勝することができました。
今後とも応援よろしくお願い致します。 (主将 岩崎衛)



団体戦 準優勝 ヨット部

私達ヨット部は江ノ島で行われた東医体で、団体戦準優勝という結果を収めることができました。届かなかった優勝を次こそは果たすべく、部員一同、1年間全力で練習に励んで参ります。この度はご声援をありがとうございました。 (主将 村田桜子)



第60回 東日本医科学学生総合体育大会 夏季競技結果

	優勝	準優勝	第3位	千葉大学医学部順位
陸上(男子)	筑波大学	慶応義塾大学	東北大学	入賞ならず
硬式野球	千葉大学	東京医科大学	聖マリアンナ医科大学	優勝
硬式テニス(男子)	筑波大学・慶応義塾大学		順天堂大学・日本大学	2回戦敗退
硬式テニス(女子)	杏林大学・横浜市立大学		群馬大学・北里大学	ベスト16
ソフトテニス(男子)	新潟大学	弘前大学	東北大学	準決勝トーナメント初戦敗退
ソフトテニス(女子)	旭川医科大学	山梨大学	千葉大学	第3位
卓球(男子)	東北大学	筑波大学	札幌医科大学	ベスト16
卓球(女子)	岩手医科大学	弘前大学	秋田大学	予選リーグ3位
バレーボール(男子)	順天堂大学	慶応義塾大学	旭川医科大学	ベスト8
バドミントン(男子)	旭川医科大学	山形大学	東北大学・群馬大学	3回戦敗退
バドミントン(女子)	札幌医科大学	秋田大学	岩手医科大学・福島県立医科大学	2回戦敗退
サッカー	信州大学	日本大学	千葉大学	第3位
バスケットボール(男子)	群馬大学	北海道大学	山形大学	2回戦敗退
バスケットボール(女子)	秋田大学	筑波大学	日本大学	敗者復活2回戦敗退
剣道	秋田大学	群馬大学・自治医科大学・防衛医科大学		(男子)予選リーグ4位、(女子)予選リーグ3位
空手(男子)	自治医科大学	慶應義塾大学	札幌医科大学	1回戦敗退
弓道	東北大学	秋田大学	福島県立医科大学	入賞ならず
水泳(男子)	日本医科大学	慶應義塾大学	東北大学	入賞ならず
水泳(女子)	筑波大学	東京医科大学	慶應義塾大学	入賞ならず
ヨット	東北大学	千葉大学	横浜市立大学	準優勝
ゴルフ(男子)	埼玉医科大学	慶應義塾大学	群馬大学	第18位
ゴルフ(女子)	獨協医科大学	慶應義塾大学	千葉大学	第3位

第60回 東日本医科学学生総合体育大会 夏季競技結果総合ポイント

第1位	第2位	第3位	千葉大学医学部順位
慶応義塾大学	筑波大学	秋田大学	15位/37大学

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 陸上(男子) | (男子)110mH7位入賞:土橋正弥、1500m決勝進出:福原一将 | バドミントン | (女子)シングルスベスト32:平高明音、ダブルスベスト16:平高明音・大山真由 |
| ソフトテニス | (男子)ベスト32:岡野優一・草野武己、ベスト32:角谷五郎・加藤広大
(女子)ベスト8:小澤優・佐藤奈緒、ベスト32:高橋茜・田尻優希 | 弓道 | 10位 宇佐美澪太 |
| 卓球 | (男子)シングルスベスト32:藤谷、ベスト32:鈴木、ダブルスベスト16:青野和人・藤谷誠、ベスト32:鈴木康広・荘司明広
(女子)シングルスベスト32:登内沙英子、ダブルスベスト32:登内沙英子・武久佳央 | 水泳 | (男子)100mバタフライ8位入賞:横山雄大 |
| | | ヨット | 2位 遠藤雄二・榎並奏、八木はるか |
| | | ゴルフ | (女子)10位:山本祐実、11位:村瀬摩希子、25位:倉田有菜、40位:小野祐子 |

第3位 サッカー部

東医体にて、サッカー部が第3位になりましたことをご報告いたします。前年度優勝校として臨みましたが準決勝にて信州大学にPKの末、敗北してしまいました。東医体をもって幹部は交代となりましたが、来年度の大会でも良い結果を残せるよう精進して参ります。

(主将 原 直輝)



三位決定戦後の集合写真



第3位 軟式庭球部(女子)

私達はほとんどが初心者でしたが、東医体で勝つことを目標にできる限りの練習を重ねました。選手だけでなく全員で力を合わせて戦うことができた本当にいいチームだったと思います。これからも感謝の気持ちを忘れずに、日々の練習に励みたいと思います。

(医学部3年 佐藤奈緒)

第3位 ゴルフ部(女子)

ゴルフ部は現在約50名の部員が所属しております。ゴルフは男女問わず大学から新しいスポーツを始めたい方にオススメです。春秋にあるリーグでは一番上のAリーグで、団体入賞を目指し日々練習を積み重ねております。(主将 石川菜利)



ご寄附のお願いと寄附金の税額控除のお知らせ

猪之鼻奨学会は、大正4年(1915年)に創立されて以来、多くの方々からの善意の寄附金により奨学事業を実施してきております。平成24年4月1日「公益財団法人」として、新たにスタートした猪之鼻奨学会は、「定款」に謳いますよう、医学及び薬学の研究を奨励することを目的として、研究事績の優秀な者に研究費の補助、そして学資の欠乏を告げた学生に学資の貸与を行ないます。これらの事業を遂行するために、どうか皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

一口5,000円ですが、ご都合により何口でも結構です。ご寄附にご賛同いただける方は下記口座にお振込みください。

なお、「特定公益増進法人化にともなう寄附金の税額控除」に関しては、公益財団法人へ移行したことにより、本会が税制上の優遇措置の対象となる特定公益増進法人となりました。従って、個人によるご寄附の場合、所得の40%を上限として、ご寄附金額から2千円を差し引いた金額が、その年の課税所得から控除されます。

法人によるご寄附の場合、一般の寄附金とは別枠で、特別損金算入限度額まで、損金の額に算入することが認められます。

今後とも、皆様方の一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

公益財団法人猪之鼻奨学会 理事・評議員一同

ゆうちょ銀行
口座番号 00180-3-59844
口座名 公益財団法人猪之鼻奨学会
【お問い合わせ先】
Tel & Fax 043-226-2059
E-mail : ishougakukai@chiiba-u.jp

会員から

のの は な 同 窓 会 支 援

第42回 のの は な 美 術 展 開 催

橋本 英明 (昭45)

第42回 のの は な 美 術 展 (9月25日〜10月1日) は、無事に終了致しました。ここに報告させていただきます。これも母校の応援と、皆様のご理解によるものと感謝している次第です。今回で42回目となりましたが、よく続いているものだと思えて感心しております。これも歴代OBのご尽力によるものであります。

今回は、旧大学病院の取り壊しに当り、その勇姿を絵画に残すようにとの要望

をいただきました。役立てて頂けるかどうか、三点ほどが異なる趣で描かれております。現在、当会には二つの不安材料があります。一つは会場の前に銀座シックスが出来上がり、大変な盛況となっております。展覧会場としては、望ましい立地条件です。しかしながら、会場側の町並みは相当に旧く



島田哲男 宮下久夫 吉川広和 橋本英明 菅ヶ谷純弘

そうすると、会場費の値上げが心配されます。作品が売れば、それで賄えるのですが、一般に芸術作品の価値が理解されるまでには、時間がかかるものです。もう一つは、出品数の減少です。年々、

会員が高齢化している事と、新たな入会が少ない事によるものです。幸い今回は、新たな入会がありました。今後とも皆様には勧誘の方宜しく願ひ致します。新聞によると、千葉大学では墨田区にサテライトの設置を予定しているとの事。大学の発展が楽しみです。大学生数の制限をしなければならぬほど、東京には魅力がある事は否めません。よい学生が良い大学を造る。その意味で、須く在校生は東京基準を超えるよ

29年度会計報告

28年度収入		29年度支出	
同窓会賛助金	200,000円	会場費	420,000円
会員出品料10名	300,000円	案内状・郵便・通信費等	41,000円
不出品料2名	10,000円	受付・搬入出経費	59,000円
合計	510,000円	合計	520,000円

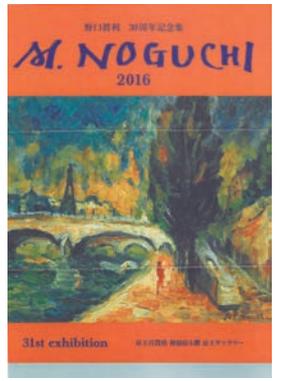
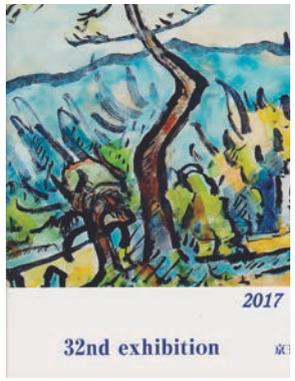
(次年度繰越金 18,000円)

学生時代、白鯨社にみんな集まって絵を描いていました。現在も白鯨社の皆さん活動されていますか？今年も銀座で42回目の「のの は な 美 術 展」が行われまして。これを機に筆をとらせて頂くことになりました。まずは御礼を申し上げます。小生、練馬で内科開業以来、個展を始め、今年で32回になります。昨年、今年、来年と新宿京王ギャラリーでは3回目を迎えることになりました。2年間の絵を画集にまとめてみました。画集では、南フランスのアルル、ディジョンをスタートにブルゴーニュのワインル

う頑張つて欲しいものです。折り込み広告程の効果ですが、のの は な 美 術 展 が 千 葉 大 学 の 宣 伝 に なる よ う に 努 め たい と 思 っ ます。出品者は次の通りです。伊藤 進(昭26) 川村 孝子(昭36) 宮下 久夫(昭38) 野口 眞利(昭40) 吉川 広和(昭40) 島田 哲男(昭41) 菅ヶ谷 純弘(昭45) 橋本 英明(昭45) 宮蘭 千代子(昭45) 榎本 貴夫(昭47) 幹事 宮下 久夫 野口 眞利 島田 哲男 橋本 英明

と の 交 流 を 求 め て 野口 眞利 (昭40)

東京銀座の「のの は な 美 術 展」は 来 年 も 行 わ れ ま す。是非、絵をお好きな多くの先生方そして学生諸君も参加して頂けると嬉しいですね。そして我々OBも千葉大学祭に交流できると面白いですね。皆様、宜しくお願い致します。



ート、パリのエッフェル塔を背景にセーヌ河、そしてモンマルトルの丘の古い建物などの絵を紹介しております。画家の中では、いつもゴッホ、モネ、佐伯祐三、ルオー、ピカソなどの巨匠を意識しています。目標としては「自分で感動できる絵」を画いてみたいと思っております。ア

私たちは人びとの健康を高め 満ち足りた笑顔あふれる 社会づくりに貢献します。



大鵬薬品工業株式会社 TAIHO PHARMACEUTICAL CO., LTD. https://www.taiho.co.jp

欧州医学史巡り — ウィーン —

杉田 克生 (昭54)

日本からウィーンへは以前はオーストリア航空でダイレクトに行けたが、最近日本からの直行便はない。前号に掲載されたセンメルワイズ医学史博物館と同時期に訪問した、ウィーンの病理解剖学博物館と医学史博物館を紹介する。1784年トルコとの戦争の際に傷病兵と貧民を救う目的で、皇帝ヨーゼフ2世が2000床のウィーン大学附属病院である王立総合病院“Algemeines Krankenhaus”を建てた。その際併設された陸軍軍医学校の建物が現在の医学史博物館である。

王立総合病院の一角に円筒型の2人部屋139室の5階建て精神科病棟が建て



ウィーン大学内 医学史博物館

られた。1861年まで精神科病棟として使用され、その後医師官舎などに使われ、現在は病理解剖学博物館になっている。医学部学生が案内してくれたが、各階環状の廊下の左右の部屋に標本が所狭しと展示されていた。

欧州では中世から病人が死亡すると解剖する伝統があり、その延長で解剖病理学が医学の基礎となってきた。1ヶ月から10ヶ月までの胎児から16歳までの全身骨格標本や頭蓋骨標本、ヤードス奇形などの各種奇形標本などが展示されていた。またロキタンスキーが世界で最初の病理解剖学教授となった伝統からか、日本で

はなかなかお目にかかれないう病理標本やワックス皮膚病標本が豊富にあった。同じウィーン大学キャンパス内にある医学史博物館は“Josephinum”と呼ばれる瀟洒な建物である。玄関前にはは神アスクレピオスの娘

「衛生“Hygiene”」の語源であるヒュゲイアの立像がある(写真)。この博物館の「至宝」といえるのは、ピルロートが世界で始めて行った胃がん手術の摘出標本と術後3か月で亡くなった後剖検で得られた術後胃標本である。その当時まで進行した幽門がん患者は手術できず、幽門狭窄で食べることができず最期を迎えていたのであろう。

別室にはワックスで作った正常解剖標本が展示されている。200年以上前にフイレンツェの職人に大金を出して作成された。家族連れなども見学できる。子どもの頃から人体に関心をもたせるのは良いことである。



千葉県のはな会 次世代リーダー育成 海外留学奨学金制度

留学報告 — 世界一の環境について —

医学部4年 上野 健

平成29年9月中旬から約一週間、ご縁に恵まれ千葉県のはな会次世代リーダー育成海外留学奨学金制度の第2期生として、中西恵さん(医学部3年)とともにハーバード公衆衛生大学院(HSPH)に留学してきました。貴重な機会を与えて下さいました、千葉県のはな会秋葉哲生会長(昭50)や理事の先生方をはじめ、会員の皆様に深く感謝申し上げます。

私が本奨学金に応募した理由はいくつかありますが、世界一と言われているハーバード大学と、そこにいる人達をこの目でみて、雰囲気を感じたいと思ったことが大きな理由です。世界のトップレベルの授業、環境、学生をみれば、そこから現在の自分の立ち位置が見えてくるのではないかと思います。

現地では、厚生労働省医系技官で、ハーバード公衆衛生学修士課程在学生の松本晴樹先生(平18)がホスト

として迎えて下さいました。HSPHをはじめ、ハーバードのKennedy School(公政策大学院)(写真)、Burr Bus Schoolでの講義や、マサチューセッツ工科大学(MIT)の医療ビッグデータ活用の講義を受けました。それだけでなく、ボストン周辺の複数施設にて活躍されている千葉大学卒業生を訪ねました。具体的にはハーバード大学医学部関連病院であるBoston Children's Hospitalや、Beth Israel Medical Centerなどの見学をさせて頂きました。

私は今回の短期留学の中で、大きく2つのことに心を動かされました。1つ目は、医療への統計的、論理的な解析によるアプローチです。HSPHで学んだ因果推論は、与えられたデータから誤った解釈をせずに、真の因果関係を見いだす学問です。臨床や医療政策において、何となく、こうだろうなど思われていることに対して、データ

を解析し、正しいエビデンスに基づいた事実を示すことができるのは魅力だと思いました。今後、臨床データなど様々なことの情報化が進み、情報が溢れる世界で正確な扱い方を身につけているかが鍵になってくると思います。こういった学問の存在を知ることができたことが嬉しかったです。今回入り口の一部しか学べなかつたので、今後さらに学びたいです。

2つ目は、ハーバード大学や、周辺の施設にいる人達の姿勢についてです。ハーバードの学生達は授業中にも積極的に発言しており、双方向的な授業が行われていました。ハーバードの学生や、ボストンで研究をしている医師など多くの方のお話を聞かせていただいたのですが、皆、将来自分が何をしたいのかを生き生きと語れる環境だったのが素敵だと思えました。例を挙げると、話を聞いたバキスタンの学生は、アメリカで専門医を取った後HS

PHに進学しており、将来自分の国で市民病院を建てて多くの人を救いたいと語っていて、そのためにHSPHでよりpublicなことを学びたいと話していました。将来何をしたいのか強い目的意識を持ち、それに向けてストイックに自分を追い込んで努力する姿勢がカッコよかったです。多くの方々の話を聞いて、自分も今後将来像を少しずつ具体的にイメージして、リスクを恐れずに主体的に行動していきたいと思えました。

また、滞在中に嬉しかったのは、千葉大学卒業生の先生方との会食です(写真)。初対面の私達をあたたかく迎えて下さり、千葉大学同窓の繋がりの強さを実感しました。



Harvard Kennedy School (公政策大学院) にて

会費納入のお願い

平成29年度会費未納の方に振込用紙を同封しましたので、5千円を納入してください。なお、行き違いに振り込まれた方に届いた場合はご容赦ください。



写真左から武藤剛、藤村公乃、中西恵、上野健、松本晴樹、柳澤如樹

最後となりましたが、Boston Children's Hospital やラボの案内を下された藤村公乃先生(平16)、Beth Israel Medical Center の案内を下された内御堂亮先生、HSPHの柳澤如樹先生(平15)、松本晴樹先生(平18)、武藤剛先生(平19)、日本からサポートを下さいました千葉県のはな会の吉村健佑先生(平19)には重ねて御礼申し上げます。

千葉医学雑誌93巻5号 2017年10月

症例
子宮穿孔による汎発性腹膜炎にて発症した局所進行直腸癌の1例
天海博之 当間雄之 大平学 鈴木一史 西森孝典
成島一夫 藤代健 栃木透 宮内英聡 松原久裕
体外結紮による腹腔鏡下胃固定術を施行した成人特発性胃捻転症の1例
西田孝宏 新村兼康 吉留博之 文陽起 佐藤豊 中村純一
S状結腸癌および結腸過長症、偽性アルドステロン症による麻痺性イレウスの患者に鏡視下手術を施行した1例
川名智之 鈴木健紀 木下裕子 新保和広 長谷川 純
完全腹腔鏡下手術で治療した外傷性空腸穿孔の1例
間宮俊太 仲本嘉彦 鈴木洋一 泉對貴子 服部 陽
三上隆一 松井郁一 長田俊一 松田充宏 松葉芳郎

エッセイ
続・博士論文審査の主旨について：ゲッティンゲン大学での私の経験
高野光司

学会
第1346回千葉医学会例会・整形外科例会
第1353回千葉医学会例会・第34回千葉精神科集談会

雑報
連続症例研究から臨床試験へ
関根郁夫

OAP要旨
大腿骨頭壊死症に対する体外衝撃波療法の安全性と有効性：第1相臨床試験

中村順一 落合信靖 大島精司 折田純久
萩原茂生 山崎博範 鈴木崇根 高橋和久
乳癌術後第12胸椎転移性骨腫瘍に対してtotal en bloc spondylectomy (TES)施行後、Implant failureを伴う胸腰椎後弯増悪に対して追加固定術を施行した1例

井上嵩基 折田純久 鴨田博人 佐久間詳浩 稲毛一秀 佐藤 淳
藤本和輝 志賀康浩 金元洋人 阿部幸喜 山内かづ代 中村順一
松浦佑介 青木保親 江口 和 高橋和久 萩原茂生
古矢丈雄 國府田正雄 鈴木昌彦 大島精司

完全房室ブロックを伴う限局的な心筋炎を呈したリウマチ熱
齋藤直樹
國松将也 江畑亮太 高岡浩之 奥主健太郎 下条直樹
小林欣夫 平原 潔
金田篤志

CD4 T細胞を介した免疫恒常性制御機構の解明
編集後記
CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper
Safety and efficacy of extracorporeal shock wave therapy for osteonecrosis of the femoral head—a phase I clinical trial—
Junichi Nakamura, Nobuyasu Ochiai, Seiji Ohtori, Sumihisa Orita
Shigeo Hagiwara, Hironori Yamazaki, Takane Suzuki and Kazuhisa Takahashi

Case Report
Successful revision enforcement surgery for postoperative implant failure in a patient with combined anteroposterior fixation after total en bloc spondylectomy : a case report with literature review

Takaki Inoue, Sumihisa Orita, Hiroto Kamoda, Yoshihiro Sakuma
Kazuhide Inage, Jun Sato, Kazuki Fujimoto, Yasuhiro Shiga
Hirohito Kanamoto, Koki Abe, Kazuyo Yamauchi
Junichi Nakamura, Yusuke Matsuura, Yasuchika Aoki, Yawara Eguchi
Kazuhisa Takahashi, Shigeo Hagiwara, Takeo Furuya
Masao Koda, Masahiko Suzuki and Seiji Ohtori

Focal myocarditis with complete atrioventricular block as an initial presentation of rheumatic fever
Masaya Kunimatsu, Ryota Ebata, Hiroyuki Takaoka
Kentaro Okunushi, Naoki Saito, Yoshio Kobayashi and Naoki Shimojo

The Chiba Medical Society Award (2016)
CD4+ T cell subsets are crucial for the maintenance of immune homeostasis
Kiyoshi Hirahara

千葉医学雑誌93巻6号 2017年12月

症例
偶然発見された腹腔内異物性肉芽腫に対し、腹腔鏡下摘出術を施行した1例
碓井彰大 山崎一馬 児玉多羅 近藤 悟
北原美由紀 牧野治文 松原久裕

第九回千葉医学会奨励賞
難治性呼吸器疾患における血管病変とその再生機構に関する研究
鈴木敏夫

社交不安症に対する認知行動療法：標準化と抗うつ薬抵抗性患者への適応、そして普及促進に向けて
吉永尚紀

乾癬の病態形成におけるサイトカインシグナルの役割
河野健太

学会
第1336回千葉医学会例会・第6回臨床研修報告会
第1350回千葉医学会例会・平成28年度第16回千葉大学大学院医学研究院

呼吸器病態外科学教室例会
第1356回千葉医学会例会・第36回千葉泌尿器科同門会学術集会

研究報告書
平成28年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告書

OAP要旨
白蓋形成不全に対する寛骨臼回転骨切り術の長期成績
菅野真彦 中村順一 中嶋隆行 原田義忠 秋田 徹

萩原茂生 宮坂 健 折田純久 輪湖 靖 三浦道明
瓦井裕也 縄田健斗 大島精司

編集後記
松原久裕

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper
Long-term outcome of rotational acetabular osteotomy for hip dysplasia
Masahiko Sugano, Junichi Nakamura, Takayuki Nakajima

Yoshitada Harada, Toru Akita, Shigeo Hagiwara, Takeshi Miyasaka
Sumihisa Orita, Yasushi Wako, Michiaki Miura Yuya Kawarai
Kento Nawata and Seiji Ohtori

第10回(2018年度) 千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について

第11回 ちばBasic&Clinical Research Conference開催のお知らせ
93巻総目次・索引

課外活動団体だより

サッカー部

医学部3年 菱川 慎吾

千葉大学医学部サッカー部は現在、プレイヤー28人、マネージャー10人で日々練習に励んでいます。現在は、プレイヤーは全員医学部、マネージャーは医学部2人、看護学部8人の構成で活動しています。プレイヤーは経験者がほとんどですが、各学年に1人程度の割合で初心者プレイヤーもいます。経験の有無に関係なく全員で同じ練習メニューをこなすことで、切磋琢磨し、技術の向上を図っています。練習日は火曜日、木曜日、土曜日で、日曜日は練習試合もしくは公式戦を行っています。今シーズンから医学部棟新設による亥鼻キャンパスのグラウンド縮小に伴って、西千葉キャンパスのグラウンドを毎週木曜日に使って練習できるようになりました。人工芝の質の良いグラウンドで練習できる機会が増えたため、日夜練習し質の向上を目指しています。また土曜日は基本的に亥鼻グラウンドを使用しています。火曜日、日曜日は他のグラ

ンドを借りています。練習メニューは、毎回紅白戦を行うことで、チーム内競争を活性化させています。また今シーズンはフィジカルトレーニングのメニューも多く導入しています。部活全体の練習日以外にも、学業の合間を縫って自主練習に励むプレイヤーも多数います。

最後となりますが、私達サッカー部の活動はOB、OGの方々を支えられ成り立っており、今後もそのことを忘れず、千葉大学医学部サッカー部を盛り上げていきたいと思えます。引き続きご支援ご協力の程何卒よろしくお願い致します。

役員	原 直輝
キャプテン	迫 泰生
内務	六田 祐亮
外務	石木田修平
OB担当	二瓶 豪崇
会計	

主な年間の活動内容ですが、公式戦である国立大会(10月)、関東医歯薬獣大サッカー秋季リーグ(10、12月)、関東医歯薬獣大サッカー春期リーグ(4、5月)、東日本医科学学生総合体育大会(8月)などで良い成績を納めることを目標として日々練習に励んでいます。また、12月には東京大学、東京医科歯科大学との3大学交流戦、3月には広島大学、岡山大学と試合を行う関西遠征を行いサッカーを通じて大学間の交流を深めています。また、追いコンや新歓コンパなどを通じてOBとの交流も定期的に行っています。



昨年度(平29)卒業生との集合写真

同窓会員著書の紹介

子どもの病気 常識のウソ

松永 正訓(昭62)著

中公新書ラクレ 定価840円(税別) 松永 正訓(昭62)



開業医になって11年になります。大病院を辞めて開業医になった理由は、「小児がん外科医 君たちが教えてくれたこと(中公文庫)にも書きましたが、解離性脳動脈瘤を患い、(この当時)治療法がなかったために激務を避けて仕事量を減らすことにありました。確かに開業医は自分の時間を作るのが可能です。空いた時間を利用してこれまで著作活動を続けてきました。本書は7冊目の作品になります。新書を出すことは以前からの夢だったので、非常に嬉しく思っています。2016年の7月から読売新聞オンライン・ヨミドクターに「松永正訓の小児医療―常識のウソ」という

て、正しい情報を発信しているのが本書です。朝日新聞は、2017年5月14日に「抗生物質 正しい使い方を広めよう」という社説を掲げました。この社説の中には、ある調査で「抗菌薬はウイルスに効く」と半数近くの人が答えたと言われています。こういう記述もあります。「かぜは基本的に自然に治る」。そして、「患者も医師も正しい認識をもち、正しい使い方を進めたい」と結んでいます。まったく同感です。抗生物質を含めて風邪に効く薬などないというのが私の意見です。

風邪に限らず、子どもの内科疾患・外科疾患について広く書いています。おもしろくて役に立つことを心がけました。実用書としての面と、医療エッセイの面がありますので、きっとお楽しみ頂けると思っています。ぜひ、ご覧になってください。

医療エッセイを書きました。当初3カ月の約束で始まった連載が1年も続いたのはひとえに読者からの厚い支持があったからです。今回その連載エッセイに加筆・修正・削除・推敲を加えて1冊の本に仕上げました。それが『子どもの病気 常識のウソ』です。

ネット上にはあやふやな情報が溢れています。いえ、ネットに限らず、迷信・俗説・思い込み・うわさなど、医療に対する関心が高まれば高まるほど誤った情報が跋扈します。そうした偽の情報をばっさり切り捨て



ちよに会 会員近況報告誌

花井 透(昭41) 著 平和・核廃絶を求めて ―臨床医の軌跡Ⅱ―

光陽出版社

花井 透(昭41)



原爆被爆者への医療は、日本の医療課題の中で、一つの必然として取り組まれ知見が蓄積されてきている分野です。この課題への私のかかわりは先に上梓した『よい医療を求めて』―臨床医の軌跡Ⅰ―に記しましたが、広島・長崎の被爆者は、世界中どこでも二度と被爆者を作らないでほしい、核兵器を禁止してほしい、と訴えつづけています。

被爆者の健康管理を通して被爆者の心を知り、その心わが身に重ねあわせながら生きようとする時、一臨床医として、広島・長崎の健康障害などの実相を、社会に向かって、国の内外問わず、語らなければならぬと思っている。被爆者と手を取りあって原爆のもたらした被害の非人間性・非人道性を告発し、核兵器

の廃絶を求めて行動していくことが人生の欠かせないテーマとなっています。そして言うまでもないが、私の生き方の根底には、日本国憲法の三つの柱―国民主権、戦争放棄、基本的人権―に基づく日本の社会のありべき姿への希求があります。

2010年5月、当時の国連事務総長、潘基文(潘・ギムン)氏は世界の草根の市民に対して、「地平線の先に核兵器のない世界が見えています。どうか行動を続けてください」「私たちは必ず世界から核兵器をなくすでしょう。それがなされる時、それは皆さんのような人びとのおかげであり、世界は皆さんに感謝するでしょう」と語りました(本文41ページ)。

その7年後の2017年7月7日、ついに国連で「核兵器禁止条約」が採択されました。人類社会にとって初めての画期的な出来事です。ヒロシマ・ナガサキの原爆被爆者の悲願は核兵器

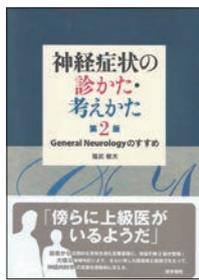
の「廃絶」ですが、その実現に向けての大きな大きな一歩となることでしよう。原爆被爆者に連帯して日本はもとより世界中の市民がたゆまずに進めてきた運動の成果です。

核戦争防止国際医師会議(PNNW)、核戦争防止千葉県医師の会、九条の会・千葉医療者の会などでの活動記録、その上さらに世界を震撼させたチェルノブイリ、そしてフクシマの原発事故に関する文章などをまとめたものです。ご一読いただければ幸いです。

福武 敏夫(昭56) 著 神経症状の診かた・考えかた ―General Neurologyのすすめ―

樹医学書院

杉田 克生(昭54)



本書は、福武敏夫先生が神経内科の日常でよく遭遇する症候や病態について、

「General Neurology」の観点から、自身の診療経験をわかりやすく記述された名著である。初版から3年で4刷も発行されたため、医学書院から改訂を勧められたとのことで、「古典的」名著の始まりと思われる。Ewin Ackerknechtは神経

第45回日本脳科学会
The 45th Annual Meeting of the Japan Brain Science Society

脳と心の健康教育から治療まで

2018年11月10日(土)、11日(日)

【会場】千葉大学 亥鼻キャンパス
〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

【大会長】清水 栄司
(千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター センター長
千葉大学 医学部附属病院 認知行動療法センター センター長
千葉大学 大学院医学研究院 認知行動生理学 教授)

【お問合せ先】第45回日本脳科学会事務局
千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター
〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
電話 043-226-2975

CHIBA UNIVERSITY
みのほな同窓会館

察学であるが、初版以上に充実した第2版をこの際手に取って熟読されることを薦めたい。

第I編は、「日常で遭遇する患者」と題し、初版の「頭痛、めまい、しびれ、パーキンソン病とその周辺、物忘れ・デメンチア・認知症、精神症状・高次機能障害、

「奇妙」な症状など」に加え、「ふるえの診かた」、「脊髄症状」、「心因性」と間違えられやすい疾患」が新たに記載されている。本書の大きい特徴としてわかりやすい自験例の豊富さがあるが、第2版では初版の1

34例から171例と大幅に増やされている。一方、第II編は「緊急処置が必要な患者」として、けいれん、意識障害、急性球麻痺、急性四肢麻痺、脳梗塞が解説されている。第III編「神経診察のポイントと画像診断のピットフォール」では、「神経症候学は神経学の魂」である」とする著者の熱い思いを読むたびに痛感させられる。医学書院の本書案内には、「通読できる本格的な神経内科書」と紹介されているが、やはり熟読、再読してこそ著者の並々ならぬGNへのパッ

シオンを共感できると思われる。思考過程のパターンは人により異なっているため、必ずしもこの通りに進める必要はないかもしれない。ただし本書は神経症状にとどまらず患者の「診かた・考えかた」に関する著者の身体診察免許皆伝書と思われる。神経内科医のみならず脳外科、精神科、小児神経科さらには総合診療科・一般内科の先生方にとり、本の帯にある「傍らに上級医がいるようだ」を実感させてくれる必携の書である。

雑文雑談 座頭市の話

石出猛史(昭52)

座頭市とは、亡くなった勝新太郎という役者が当り役とした時代劇の主人公である。盲目で按摩の剣客が悪党をバツバツと斬り倒すという話である。初作は幕末の千葉県が舞台であった。この映画で座頭市は、飯岡村(現旭市)一帯を縄張りとする博徒の親分で八州廻りの道案内(俗に岡っ引)を勤める飯岡の助五郎の子分で用心棒である。助五郎と笹川(現香取郡東庄町)を本拠地とする博徒笹川繁蔵との喧嘩(「天保水滸伝」として知られる)を軸に物語が展開される。

座頭市の原作は、作家子母澤寛(1892~1968)の随筆『ふところ手帖』に収められた「座頭市物語」という10ページ程の短編ともいえない小品である。居合の達人で人を斬ったという話はないが、賭場でもめ事があると、投げ上げた升や徳利を真二つに斬って見せて争いを収めたという話になっている。助五郎が繁蔵一家を襲撃する際、目の見えぬ者まで連れてきたと言われている、飯岡一家の名折れになるだろうと加わら

なかつた。助五郎が繁蔵一家との喧嘩で負けた後、子が繁蔵を聞討したことを批判して縁を切った座頭市は妻を連れて逃避行をし、足利で百姓をしたり、後に会津磐梯山の麓で余生を送ったという筋になっている。

この話の出所を辿ると、子母澤寛がその著作『お茶間放談』に「真説、座頭市物語」というエッセイを書いていて、佐原の知人の勧めで冬の寒い日に飯岡に取材旅行に出かけた。面白い話もなく嫌になって帰るつもりで、夕飯を食べに寄った宿の主人から聞かされたのが座頭市の話である。関東を流れ歩いてきた身元不明で盲目の市という男が来て升を放り上げて下から切ったという話はあるが、人を斬ったという話はないという。花の色を知っていたから生れついでという盲目ではなかったともいう。余生については飯岡に寄った旅人の話として伝わっていて、名は単に「市」で「座頭市」の名は子母澤寛が付けたとある。

灸などで生計をたてたが、職を持つ盲人は組合に入られていた。官位があり上から検校・勾当・座頭・紫分・市名・都である。それぞれの官位は数階に分かれ計73段あった。この他に無官位の按摩がいた。官位によって服装・使用する杖などが細く規定されていた。この官位は京都の公家久我大納言から買うものであった。都から検校に到達するまで719両を要したという。座頭市は上から三番目の官位である。関八州の盲人全ての支配者が総録(職名)で、初代の杉山検校杉山流針灸の創始者が將軍綱吉の針治療にあたったことから任ぜられた。最も有名な総録が国文学者の塙保己一(1740~1821)である。幕府が盲人に与えた特権が金貸業である。杉田玄白らが小塚原で腑分を見学した頃には、大名貸しなどで数万両の蓄財をする者もいた。

から座頭芸を伝授して没した。遺骨は会津若松市の井上常光寺に納められていると記述されている。この話の後に「座頭市は実在した」として、座頭市が長岡藩主牧野氏の御落胤であるという話、屋敷では阿部顕如、在野では佐渡市と名乗っていたという話などが付け加えられた。俗名を阿部常衛門といい嘉永2年(1849)11月23日に没した。(行年78歳)福良の古老の話では明治まで存命したように伝えられている。常光寺には「座頭市の墓」という墓石が建てられている。平成22年旭市飯岡に「座頭市物語発祥の地」の石碑が建てられた。阿部常衛門が没した嘉永2年は助五郎と繁蔵の喧嘩の5年後である。数え歳73の常衛門がこの喧嘩に加わったものかどうか。座頭市物語では市の年齢は50代後半となっている。



千葉大学ものはな同窓会会員の皆様へ

団体割引適用

「会員総合補償制度」のご案内

保険期間：平成29年3月1日午後4時～平成30年3月1日午後4時（中途加入随時受付）

4つの安心で、先生方をしっかりサポート



万一の
医療事故
を補償

地震によるケガも補償！
日常生活のケガ
を補償



働けなくなった時の
収入
を補償

万一の
がん・病気
を補償



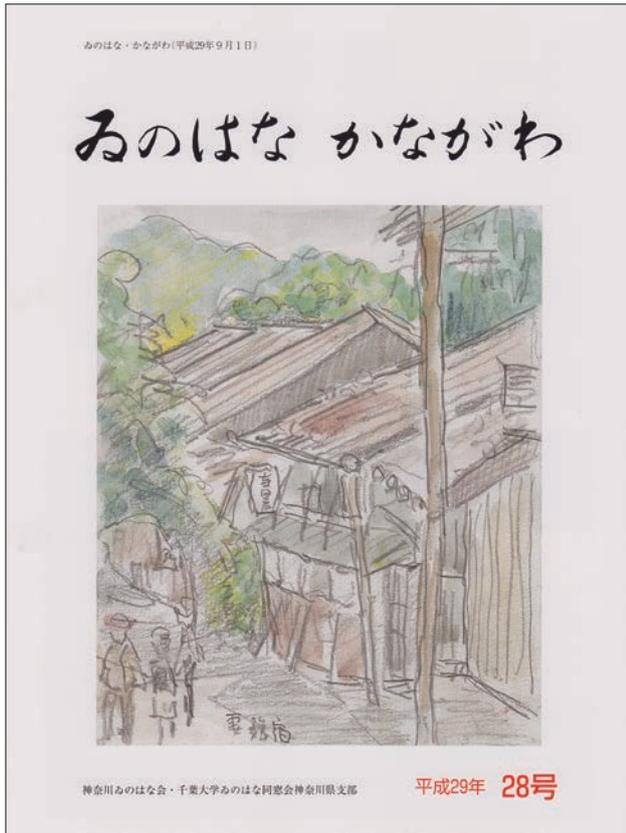
※パンフレット等資料のご請求やお申込みは、下記取扱代理店まで電話またはメールにてご連絡ください。
この広告は勤務医師賠償責任保険、フルガード保険特約付帯普通傷害保険、所得補償保険、団体長期障害所得補償保険、がん保険(1年契約用)、医療保険(1年契約用)の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入に当たっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししてあります保険約款および協定書により、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。 2017年7月 17-T03041

【お問合せ先・取扱代理店】
PIONEER 株式会社パイオニア
Tel: 0120-36-8442 (平日8:30~17:45)
http://www.pioneerltd.com/
【引受保険会社】
東京海上日動火災保険株式会社
(担当課) 医療・福祉法人部法人第一課
Tel: 03-3515-4143 (平日9:00~17:00)

東京海上日動は、1999年度からNGOをパートナーに、地球温暖化の抑制に役立つマングロープの植林をはじめました。マングロープ「海の森」づくりは、東京海上日動が地球の未来にける保険。100年間植林を継続することを目指し、取り組んでまいります。
*「マングロープ植林行動計画」
*公益財団法人オイスカ(1999年度～)
*国際マングロープ生態系協会(2009年度～)
東京海上日動
0120-868-100 午前9時～午後8時(平日、土日祝とも)
To Be a Good Company

るのはな かながわ

平成29年9月1日



のはな・かながわ (平成29年9月1日) 1

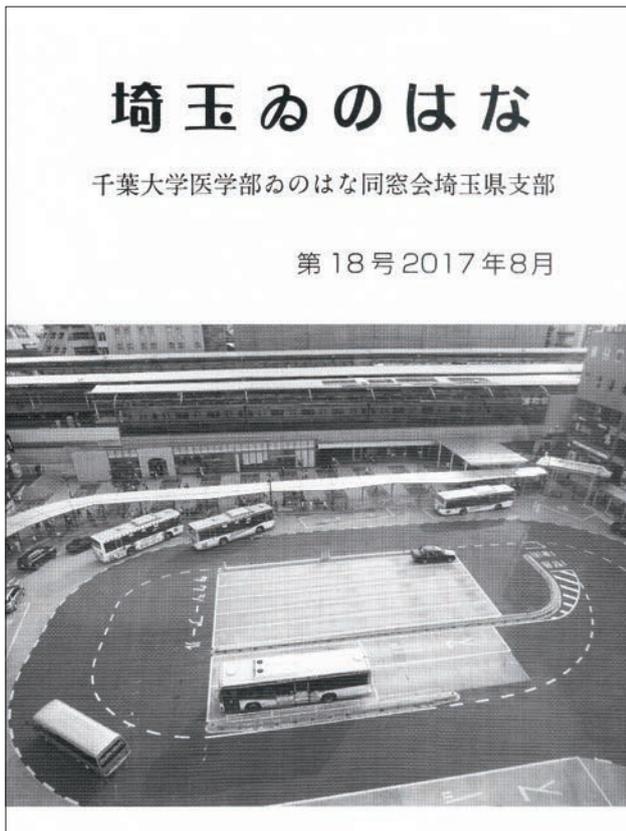
のはな・かながわ 第28号 目次

巻頭言	横浜に赴任してから	西川哲男	2	
総会	平成28年度総会開催報告	三科孝夫	4	
	平成27年度神奈川のはな会庶務報告		5	
	平成27年度決算報告・平成28年度予算案		5	
	総会風景		6	
	集合写真		7	
	平成29年度総会開催報告	高山篤也	8	
	平成28年度神奈川のはな会庶務報告		10	
	平成28年度決算報告・平成29年度予算案		10	
	総会風景		11	
	集合写真		12	
病院めぐり	大船中央病院	大淵 徹	13	
医学トピックス	実は身近な保健所			
	～横浜市保健所って? 市民の安心・安全な生活を目指して～			
		岩田眞美	15	
身辺雑記	私の音楽履歴	吉井逸郎	21	
	精神科医としてのこれまで	井上雅子	23	
	パケーションレンタルのすすめ	鈴木一雅	27	
	地域包括ケア病棟運営の経験より	湯川雅彦	29	
	神奈川での開業10年目を迎えて	平出 明	31	
	表紙絵のこと		事務局	34
	訃報			34
事務局より			34	
編集後記			35	

電子・中村隆次 / 表紙絵・堀 敬明

埼玉のはな

平成29年8月



埼玉のはな 第18号 2017年 (平成29年) 目次

ご挨拶	
ごあいさつ	吉川 廣和 …… 1
埼玉県支部総会ご案内	
お知らせ	吉川 廣和 …… 2
話の広場	
短歌	日々の診療カルテ (其の五) …… 根岸ゆきり …… 3
随想	75年前の手紙 …… 松本 生 …… 5
	第15回埼玉のはな同窓会
	ゴルフコンペに優勝して …… 菊池 義公 …… 8
	アフリカへ個人旅行一総集編 …… 小川 富雄 …… 8
	定年航海記2
	「防府マリーナ(防府市三田尻)～福岡市立ヨットハーバー(福岡市小戸)」 …… 門山 周文 …… 16
	全学ラグビー部の思い出 …… 得丸 幸夫 …… 20
趣味	マラーの音楽 (第6回) …… 上野 泉 …… 22
	連載・天体写真録 (7)
	メシエ天体カタログ第一巻 (M1～M45) …… 杉浦 敏之 …… 28
近況報告	深谷赤十字病院の近況報告
	～女性の職場としての病院～ …… 伊藤 博 …… 35
ゴルフ部から	
	第14回、15回ゴルフコンペの報告 …… 林田 和也 …… 36
埼玉県支部から	
	ご挨拶とお願い …… 中村 勉 …… 38
	平成28年度埼玉県支部決算報告 …… 中村 勉 …… 38
	埼玉県支部規約 …… 40
	お願い・原稿募集 …… 中村 勉 …… 41
	表紙写真のご案内 …… 野口 哲夫 …… 42
	編集後記 …… 野口 哲夫 …… 43

第11回

ちばBASIC & CLINICAL RESEARCH CONFERENCE

日時 平成30年2月3日(土) 13:00~17:00

場所 千葉大学みのはな記念講堂

※本研究会はスカラーシッププログラムの講義としても位置付けております。

総合司会 千葉大学医学部 2年 千葉 暁大

開催のお知らせ

13:00 ~ 開会の辞

千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学 教授 白澤 浩 先生

13:10 ~ 講座紹介

座長 千葉大学大学院医学研究院疾患生命医学 教授 幡野 雅彦先生

『超1000nm近赤外波長域で捉える画像診断学の創成』

演者 千葉大学大学院医学研究院腫瘍病理学 教授 池原 譲 先生

『代謝内分泌学・血液病学・老年医学の基礎と臨床の魅力』

演者 千葉大学大学院医学研究院細胞治療内科学講師 小野 啓 先生

13:50 ~ 学生発表

座長 千葉大学医学部4年

千葉大学医学部3年

演者 千葉大学医学部4年

千葉大学医学部4年

千葉大学医学部4年

千葉大学医学部4年

千葉大学医学部4年

千葉大学医学部4年

千葉大学医学部4年

千葉大学医学部4年

千葉大学医学部3年

依田 夏美

飯村 太朗

大山 壮歩

小山 玄太郎

菅原 ゆたか

仲 理允

中務 由彦

平井 健太郎

和田 七海

荻野 智大

15:30 ~ Coffee Break

15:40 ~ 特別講演

座長 千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学 白澤 浩 先生

『Challenging Strategy in Surgery for HPB (HepatoPancreatoBiliary) Diseases

-これまでの私の挑戦を振り返って-』

演者 国際医療福祉大学三田病院長 宮崎 勝 先生

16:40 ~ 講評

千葉大学 学長 徳久 剛史先生

16:45 ~ 学生講演表彰・閉会の辞

千葉大学大学院医学研究院長・医学部長 中山 俊憲先生

17:30 ~ 19:00 情報交換会

場所 千葉大学みのはな記念講堂内

会費 教員 1,000円 教員以外 100円

【世話人】(敬称略)

国立大学法人 千葉大学学長
国立大学法人 千葉大学理事
千葉大学大学院医学研究院院長・医学部長
千葉大学医学部附属病院院長
千葉労災病院長
船橋中央病院長
国際医療福祉大学三田病院長
千葉大学大学院医学研究院整形外科学前教授
千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授
千葉大学大学院医学研究院アレルギー・臨床免疫学教授
千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授
千葉大学バイオメディカル研究センター准教授

徳久 剛史
中山 俊憲
中山 本一
河野 陽一
横須賀 收勝
宮崎 和久
高橋 裕史
白澤 裕史
中島 裕史
大島 裕史
坂本 明美

【事務局】 千葉大学バイオメディカル研究センター内 内線 7901
担当: 坂本(sakamoto@faculty.chiba-u.jp)

主催: 千葉大学大学院医学研究院・医学部
共催: ちば Basic & Clinical Research Conference
(学生代表: 荻野 智大)、千葉医学会、みのはな同窓会

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



オンライン会報は10年以上の歴史あるインターネットサイトとなりました。300番組程の動画を掲載するに至っており、500人以上の方々の協力も得ております。その真髄を一言でまとめるならば「医学・医療の原点を伝える」です。

本紹介では、最近掲載の番組の中より、その原点を伝えているものを挙げてみます。オンライン会報は、殆どの番組についてスマートフォンなどでも閲覧可能ですので、様々な視点からご活用ください。

オンライン会報 総合目次

*本ページの動画はmp4形式です。ご覧になれない場合は、mp4対応のプレーヤーをインストールしてください。
*古い動画コンテンツの中には僅かですが専用の再生ソフトが必要な場合があります。

- ・病院紹介
- ・求人・求職
- ・同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・生涯学習講座
- ・インタビュー
- ・国際交流
- ・都道府県医師対策
- ・オンライン書庫
- ・同窓会
- ・クラス会・他大学等
- ・キャンパス便り
- ・福祉関連情報
- ・「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報）
- ・協賛企業からのお知らせ

オンライン会報 総合索引

- ・氏名
- ・病院・医院・診療所

■ 病院紹介



独立行政法人 地域医療機能推進機構
船橋中央病院

病院長 横須賀 収(中央)

副院長 深澤 元晴(左)

の は な 同窓会副会長 鈴木 信夫(右)

地域医療、地域包括ケアの中心的役割を担う

・地域医療・消化器・救急・周産期医療の充実を図って

[▶ 映像を見る](#)

・専門医の密なる連携で支える地域医療

[▶ 映像を見る](#)

[2017.8.9掲載]



医療法人鉄蕉会亀田総合病院

亀田メディカルセンター

神経内科部長 福武 敏夫(左)

広報企画室係長 磯野 由佳(右)

神経内科の未来を市中病院から観る

・患者を全人的に診る神経内科医

[▶ 映像を見る](#)

・神経内科はシンプルに!!

[▶ 映像を見る](#)

[2017.7.21掲載]

■ 同窓会員経営の病院・医師・診療所の紹介



神経内科は、認知症克服のパイオニア

医療法人同和会

神経内科千葉

所長 篠遠 仁

[2017.4.17掲載]

オンライン会報用
QRコード®



■ 生涯学習



アトピー性皮膚炎は、スーパー抗原病である
杉本 和夫
(神経内科津田沼アレルギー科)

- ・私たちがとらえたアトピー性皮膚炎
▶ 映像を見る
- ・スーパー抗原病としてのアトピー性皮膚炎
▶ 映像を見る

[2017.5.9掲載]



ミクロの世界のトキシンハンター
—細菌毒素の無毒化プロジェクト—
野田 公俊(千葉大学教授)
*野田公俊教授最終講義
[2017.3.1掲載]

■ インタビュー



NEW
おもしろきこともなき世をおもしろく
安西 尚彦(千葉大学大学院
医学研究院薬理学教授)

- ・理論を実践する先達の薫陶を積み上げる
▶ 映像を見る
- ・アグレッシブな医師を鍛え上げるもの
▶ 映像を見る

[2017.9.28掲載]



認知症治療克服の最前線を走る
島田 斉

放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部
脳疾患トランスレーショナル研究チーム主任研究員

- ・認知症を知り、克服戦略を知る ▶ 映像を見る
- ・認知症患者の脳と心を画像で診る ▶ 映像を見る
～タウPET・アミロイドPET～
- ・魅力あふれる神経内科 ▶ 映像を見る
～治療の切り札、抗タウ治療の実現～

[2017.4.27掲載]

■ 国際交流



ギリシャ医学史の旅
旅行期間:平成28年11月3日～9日
企画立案:杉田 克生
(千葉大学教育学部教授)

- ・エピダウロス遺跡 ▶ 映像を見る
- ・オリュンピア遺跡 ▶ 映像を見る

[2017.3.1掲載]



臨床現場に納得される医療政策を目指して
吉村 健佑

厚生労働省国立保健医療科学院
医療・福祉サービス研究部主任研究官
聞き手

杉田 克生(千葉大学教育学部教授)

- ・精神科臨床から医療政策へ ▶ 映像を見る
- ・科学的根拠に基づく公衆衛生の実現と人材の育成 ▶ 映像を見る

[2017.6.9掲載]

iphoneの高画質スマートフォン(7以降発売のものが好適)で撮影したビデオから、番組を作製、掲載してもらいたいとのご希望ある先生は、同窓会本部事務局までお知らせください。対応を相談いたします。



大磯 英雄(昭21)	古川 英政(昭28)
佐藤 壹三(昭21)	岩井 忠志(昭30)
石谷 治彦(昭24)	横田 俊二(昭30)
石井 貞一(昭24)	芳賀 士郎(昭32)
内藤 昭三(昭24)	矢崎 光保(昭34)
高木 美典(昭25)	近藤 省三(昭36)
浜屋 潤吉(昭25)	塚原 重雄(昭36)
森 眞治(昭25)	島 毅(昭40)
村山 智(昭26)	原 征洋(昭42)
本間 康正(昭27)	海老原 勇(昭43)
渡辺 武(昭27)	藤塚万里子(昭43)
柴崎 晃(昭28)	内田由起夫(昭56)
住吉 宗三(昭28)	廣瀬 勝治(富山医大・昭63)

おくやみ

明けましておめでとうござい
ます。平成30年の新年を迎えま
した。平成の年号はあと一年半
となります。天皇陛下の生前退
位は200年ぶりの出来事との
ことですが、同窓会員の皆様に
とって良き1年となりますこと
をお祈り申し上げます。さて、
今回の同窓会報177号では、
のりな同窓会長の洛陽先生の
年頭のご挨拶、ならびに各地域
ののりな同窓会からのご挨拶
を掲載いたしました。その他、

就任挨拶、のりな会やクラス
会のご報告、現役学生さんの活
動状況など、盛り沢山な内容と
なっております。この同窓会報
が会員の皆様にとって魅力ある
ものに出来上がっているのでは
あれば、我々編集委員にとって何
よりの喜びであります。一方、
今回の編集会議では「同窓会員
の皆様が真に望まれている情報
を十分にお届けできているか」
という点は常に真摯に振り返り、
より良いものになるよう努力す

べきだという意見も挙げられま
した。また、他大学卒業の先生
方で会員として同窓会の活動を
ご支援いただき、発展に大きく
貢献されている方々も数多くお
られます。のりな同窓会報が
そのような方々にとっても親し
みやすく有意義なものとなりま
すよう、より一層の努力を重ね
ていく所存です。今後とも皆様
からの厚いご支援とご鞭撻を賜
りたく存じます。

編集委員会委員

編集委員長 三木 隆司(昭63)	鈴木信夫(昭47)	横須賀収(昭50)
青木 謹(昭36)	織田成人(昭53)	吉田英生(昭53)
高橋和久(昭51)	巽浩一郎(昭54)	廣島健三(昭54)
杉田克生(昭54)	白澤 浩(昭57)	幡野雅彦(昭57)
瀧口正樹(昭56)	松原久裕(昭59)	木元博史(昭61)
桑原 聡(昭59)	松江弘之(昭62)	
松宮護郎(大阪大・昭61)	横手幸太郎(昭63)	
吉野一郎(九州大・昭62)		
清水栄司(平2)	加藤佳瑞紀(平4)	栃木直文(平12)

(平成30年1月1日現在)

編集後記

International Meeting on **RECQ** Helicases and Related Diseases 2018

国際シンポジウム「早老症と関連疾患」

February 16(Fri.) - 18(Sun.)

Kazusa Akademia Park かずさアカデミアホール

Chair of the Organizing Committee: Koutaro Yokote (Chiba University)

早老症およびその関連疾患として知られるRECQヘリカーゼ病(ウェルナー、ブルーム、ロズモンドトムソン症候群)やハッチソン・ギルフォード症候群、コケイン症候群、色素性乾皮症の病態と治療について論じる日本で初めての国際シンポジウムです。早老症の克服に向けて、細胞老化やゲノム、ミトコンドリア、疾患iPS細胞など関連領域から第一線の基礎、臨床研究者をお招きし、新たな発見やトランスレーショナルリサーチを生み出す機会を目指します。

Plenary Speakers

George Martin (University of Washington), Vilhelm Bohr (National Institute of Aging), Yoshihide Hayashizaki (Riken), Jan Hoeijmakers (Erasmus University)

Speakers

Leslie B. Gordon (Brown University), Ray Monnat (University of Washington), Nathan Ellis (University of Arizona), Lisa Wang (Texas Children's Hospital), Deborah Croteau (National Institute of Aging), Sengupta Sagar (National Institute of Immunology, India), Joanna Groden (Ohio State University), Junko Oshima (University of Washington), Makoto Goto (Toin University of Yokohama), Guanghui Liu (Chinese Academy of Science), Yasuhiro Furuichi (Gene Care Institute), Eiji Hara (Osaka University, Cancer Institute), Kohjiro Ueki (Tokyo University, National Center for Global Health and Medicine), Ichiro Manabe (Chiba University), Wado Akamatsu (Juntendo University), Kaoru Sugawara (Kobe University), Chikako Nishigori (Kobe University), Shigeru Yanagi (Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences), Masato Fujioka (Keio University), Kenji Ihara (Oita University), Koutaro Yokote (Chiba University)

国内外の患者さんやご家族と研究者の交流機会も設ける予定です。幅広い皆様の参加をお待ちしています。

ポスター演題を募集しています。ふるってご応募下さい!

お問い合わせ <http://www.jtbw-mice.com/recq2018/> 主催 RECQ2018実行委員会
E-mail: recq2018@west.jtb.jp E-mail: recq2018@west.jtb.jp 公益財団法人 難病医学研究財団

今年(平成30年)2月16日~18日に、難病医学研究財団との共催により、かずさアカデミアホールで、国際シンポジウム「早老症と関連疾患2018(International Meeting on RECQ Helicases and Related Diseases 2018)」を開催する運びとなりました。

アジアで初めての試みとなり、早老症はもちろんのこと、細胞老化やミトコンドリア、ゲノム、疾患iPS細胞など関連の領域から、国内外の第一線の基礎、臨床研究者をお招きし、老化とその応用に関わる研究全般を学び、討議する場を目指しています。千葉県内での開催となりますため、教員・学生を問わず、ご興味のある皆さまのご参加を楽しみにしております。

<http://www.jtbw-mice.com/recq2018/>

同窓会
会員名簿(平成30年)について
会員名簿(平成30年)を平成29年10月に会員の皆様の御協力で、無事発行させていただきました。年々、個人情報の掲載が困難となってきたこと、今回は大学院在学学生・修了生の掲載ができませんでした。つきましては今後の検討課題とさせていただきます。同窓会事務局